

もくじ

| | |
|-------------|----|
| もくじ | 1 |
| はじめに | 5 |
| やりたいことを探そう！ | 10 |

1章 本体の機能 15

| | |
|----------------------|----|
| 1 各部の名前 | 16 |
| ① 前面図 | 16 |
| ② 背面図 | 18 |
| ③ 裏面図 | 19 |
| 2 システムインジケータ | 21 |
| 3 キーボード | 22 |
| ① キーボード図 | 22 |
| ② キーシフトインジケータの切り替え | 24 |
| ③ キーを使った便利な機能 | 25 |
| 4 タッチパッド | 29 |
| ① タッチパッドを設定するには | 29 |
| ② タッピング機能 | 29 |
| ③ シーソースイッチ | 31 |
| ④ その他の設定 | 31 |
| ⑤ タッチパッドを無効／有効にするには | 33 |
| 5 ディスプレイ | 34 |
| ① ディスプレイの設定 | 34 |
| 6 ハードディスクドライブ | 36 |
| ① ハードディスクドライブに関する表示 | 36 |
| 7 サウンド機能 | 37 |
| ① スピーカの音量を調整する | 37 |
| ② 音楽／音声の録音レベルを調整する | 38 |
| 8 マルチドライブ | 39 |
| ① CD／DVD について | 39 |
| 9 SD メモリカード | 42 |
| ① SD メモリカードについて | 42 |
| ② SD メモリカードのセットと取り出し | 43 |
| ③ SD メモリカードを使う前に | 44 |

| | |
|--------------------|----|
| 10 ワンタッチボタン | 48 |
| 11 セキュリティロック | 49 |

2章 音楽と映像 51

| | |
|--|----|
| 1 音楽 CD を聴く | 52 |
| ① Windows を起動して音楽 CD を聴く | 52 |
| ② Windows を起動しないで音楽 CD を聴く | 54 |
| 2 音楽ファイル聴く | 56 |
| ① 音楽再生用アプリケーションを起動する | 56 |
| ② Windows Media Player でファイル再生する | 56 |
| 3 オリジナル音楽 CD を作る | 60 |
| ① Drag'n Drop CD + DVD を使うために | 60 |
| ② Drag'n Drop CD + DVD を使う | 62 |
| 4 DVD-Video を観る | 65 |
| ① InterVideo WinDVD を起動する | 65 |
| ② InterVideo WinDVD を使う | 67 |
| 5 デジタルカメラの写真を編集/整理する | 71 |
| ① デジカメ Walker を使う | 71 |
| 6 映像を編集する | 74 |
| ① 映像編集の流れ | 74 |
| ② アプリケーションをインストールする | 74 |
| ③ 映像を編集する | 75 |

3章 通信機能 79

| | |
|-----------------------------------|-----|
| 1 LAN へ接続する | 80 |
| ① ケーブルを使った LAN 接続 (有線 LAN) | 80 |
| ② ケーブルを使わない LAN 接続 (無線 LAN) | 82 |
| ③ ネットワーク設定に便利な機能 | 92 |
| 2 Bluetooth 機能を使う | 96 |
| ① Bluetooth とは | 96 |
| ② Bluetooth 機能を使って通信する | 98 |
| 3 内蔵モデムについて | 106 |
| ① 海外でインターネットに接続する | 106 |

4章 周辺機器の接続

109

| | |
|-------------------------------------|-----|
| 1 周辺機器について | 110 |
| ① 周辺機器を使う前に | 111 |
| 2 スリムセレクトベイ機器を差し替える | 112 |
| ① スリムセレクトベイ機器について | 112 |
| ② スリムセレクトベイ機器の差し替え | 112 |
| 3 フロッピーディスクドライブを接続する | 115 |
| ① フロッピーディスクドライブ | 116 |
| ② フロッピーディスク | 117 |
| ③ フロッピーディスクを使う前に | 118 |
| 4 PC カードを接続する | 122 |
| ① PC カードを使う前に | 122 |
| ② PC カードを使う | 123 |
| 5 USB 対応機器を接続する | 126 |
| 6 プリンタを接続する | 128 |
| ① プリンタの接続と設定 | 128 |
| 7 テレビを接続する | 130 |
| 8 CRT ディスプレイを接続する | 135 |
| 9 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する | 136 |
| 10 その他の機器を接続する | 138 |
| ① マイクロホン | 138 |
| ② ヘッドホン | 139 |
| 11 メモリを増設する | 141 |

5章 バッテリ駆動

147

| | |
|----------------------|-----|
| 1 バッテリについて | 148 |
| ① バッテリ充電量を確認する | 149 |
| ② バッテリを充電する | 151 |
| ③ バッテリパックを交換する | 154 |
| 2 省電力の設定をする | 156 |
| ① 省電力ユーティリティ | 156 |

| | | |
|---|-----------------------------|-----|
| 3 | パソコンの使用を中断する／電源を切る | 162 |
| ① | スタンバイ | 163 |
| ② | 休止状態 | 163 |
| ③ | 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する | 165 |

6章 アプリケーションについて 167

| | | |
|---|-------------------------------|-----|
| 1 | アプリケーションを使う前に | 168 |
| 2 | アプリケーションを追加（インストール）する | 170 |
| 3 | アプリケーションを削除（アンインストール）する | 171 |

7章 システム環境の変更 173

| | | |
|---|------------------------|-----|
| 1 | システム環境の変更とは | 174 |
| 2 | 東芝HWセットアップを使う | 175 |
| ① | 東芝HWセットアップの起動と使用 | 175 |
| 3 | パスワードセキュリティ | 181 |
| ① | ユーザパスワード | 182 |
| ② | スーパーバイザパスワード | 186 |
| ③ | ユーザパスワードの入力 | 187 |
| ④ | HDDパスワードについて | 188 |
| 4 | BIOSセットアップを使う | 190 |
| ① | BIOSセットアップの操作 | 190 |
| ② | BIOSセットアップの画面 | 193 |
| ③ | 設定項目 | 194 |

付録 211







| | | |
|---|---------------------|-----|
| 1 | 本製品の仕様 | 212 |
| 2 | 各インタフェースの仕様 | 221 |
| 3 | 技術基準適合について | 226 |
| 4 | 無線LANについて | 240 |
| 5 | Bluetoothについて | 247 |
| | さくいん | 253 |

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

| | |
|---|---|
|  警告 | “取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。 |
|  注意 | “取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。 |
|  お願い | データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。 |
|  メモ | 知っておくと便利な内容を示します。 |
|  役立つ操作集 | 知っておくと役に立つ操作を示します。 |
|  参照 | このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「 」 他のマニュアルへの参照の場合…『 』 サイバーサポートへの参照の場合…〈 〉 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。 |

- * 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
- * 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
- * 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム (OS) を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME スタンダード 2002 を示します。

サイバースポート
CyberSupport for TOSHIBA を示します。

記載について

- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Bookshelf Basic は、次の書籍を基に制作されました。『新英和中辞典』第6版 (c) 研究社 1967, 1994, 1998、『新和英中辞典』第4版 (c) 研究社 1933, 1995, 1998、『新明解国語辞典』第5版 (c) 三省堂 1972, 1974, 1981, 1989, 1997
- ・ Intel、インテル、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- ・ Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・ 駅前探検倶楽部、ekitanExpress Online、LaLaVoice、The 翻訳、The 翻訳インターネット、ConfigFree は (株) 東芝の商標または登録商標です。

- ・ Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- ・ Drag'n Drop はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ 駅すぱあと は株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラス は株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
(c) 2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・ 携快電話は、ソースネクスト株式会社の登録商標です。
- ・ 時事通信社「家庭の医学」デジタル版Ⅱは、時事通信社の商標です。
- ・ MotionDV STUDIO は、松下電器産業株式会社の登録商標です。
- ・ infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- ・ アメリカ・オンラインおよび AOL は AOL の登録商標です。
- ・ BIGLOBE は日本電気株式会社の商標です。
- ・ DION は KDDI 株式会社の登録商標です。
- ・ OCN は NTT コミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・ @nifty は、ニフティ株式会社の商標です。
- ・ ODN は日本テレコム株式会社の商標です。
- ・ 東京電話インターネットは東京通信ネットワーク株式会社の登録商標です。
- ・ かるがるネット、かるがるネットのロゴは株式会社アイコムジャパンの商標または登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ AC アダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5 ~ 35°C (高所の場合 25°C) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製 (データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について


「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・無線LANの使用によるデータの盗聴、およびそれによる被害に関しては保証できません。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の「お客様登録カード」またはインターネット経由で登録できます。

 参照 詳細について『まずはこれから ユーザ登録をする』

「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

やりたいことを探そう！



Welcome!

探しかた

- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ XXXXX
↳ アプリケーション名 ↳ 参照ページまたは参照マニュアル名



通信を楽しむ

- ・ プロバイダと契約したい
「簡単インターネット」 ⇒ 『まずはこれから』
- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ 『基本をマスター 2章』
- ・ 英語のホームページを日本語に翻訳したい
「インターネット翻訳 英日」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ 日本語のホームページを英語に翻訳したい
「インターネット翻訳 日英」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ 海外でインターネットに接続したい
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」 ⇒ P.106
- ・ Bluetooth機能を使いたい
「Bluetooth 東芝ユーティリティ」 ⇒ P.96



メールを使う

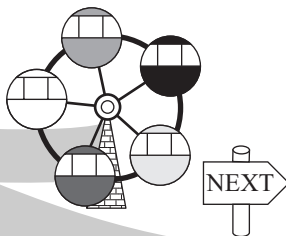
- ・ メールとスケジュールをまとめて管理したい
「Microsoft Outlook」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ メールをしたい
「Microsoft Outlook」 「Outlook Express」 ⇒ 『基本をマスター 3章』





音楽を楽しむ

- ・音楽CDやファイル、ムービーを再生したい
「Windows Media Player」⇒P.52
- ・オリジナル音楽CDをつくりたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒P.60



音声

- ・パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
「LaLaVoice」⇒《サイバーサポート》



画像/映像を楽しむ

- ・デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい
「デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)」⇒P.71
- ・デジタルビデオカメラの映像を取り込んで編集したい
「MotionDV STUDIO」⇒P.74
- ・DVDを楽しみたい
「InterVideo WinDVD」⇒P.65



文書/表を作る

- 案内状や報告書を作りたい
「Microsoft Word」⇒《サイバーサポート》
- 表やグラフを作りたい
「Microsoft Excel」⇒《サイバーサポート》



便利なソフト

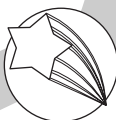
- 地図で場所を調べたい
「プロアトラスW for TOSHIBA」⇒《サイバーサポート》
- 電車の経路や時刻表、運賃を調べたい
「駅すばあと」「ekitanExpress Online」⇒《サイバーサポート》
- 年賀状や暑中見舞いを作りたい
「筆ぐるめ」⇒《サイバーサポート》
- 国語/英和/和英辞典を使いたい
「Microsoft Bookshelf Basic」⇒《サイバーサポート》
- 医学辞典を使いたい
「時事通信社「家庭の医学」デジタル版Ⅱ」⇒《サイバーサポート》
- 携帯電話を快適に使いたい
「携快電話7」「Outlook plus!」⇒《サイバーサポート》





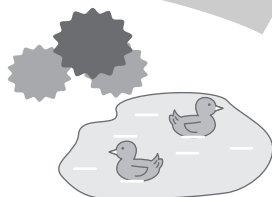
パソコンを守る

- ・ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton Internet Security」⇒「困ったときは 2章」
- ・CD-R、CD-RWにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒「困ったときは 2章」



パソコンの設定

- ・パソコンの状態をチェックしたい
パソコンの基本情報を知りたい
「東芝PC 診断ツール」⇒「困ったときは1章」
- ・ハードウェアの設定を変えたい
「東芝 HW セットアップ」⇒P.175
- ・ワンタッチボタンの設定を変えたい
「東芝コントロール」⇒P.48
- ・キー操作でアプリケーションを起動したい
「Fn-esse」⇒《サイバーサポート》
- ・バッテリー駆動のときの省電力設定をしたい
「東芝省電力ユーティリティ」⇒P.156
- ・アイコンやメニューを大きくしたい
「Liquid View」⇒《サイバーサポート》
- ・パスワードを設定したい
「東芝パスワードユーティリティ」⇒P.181



1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

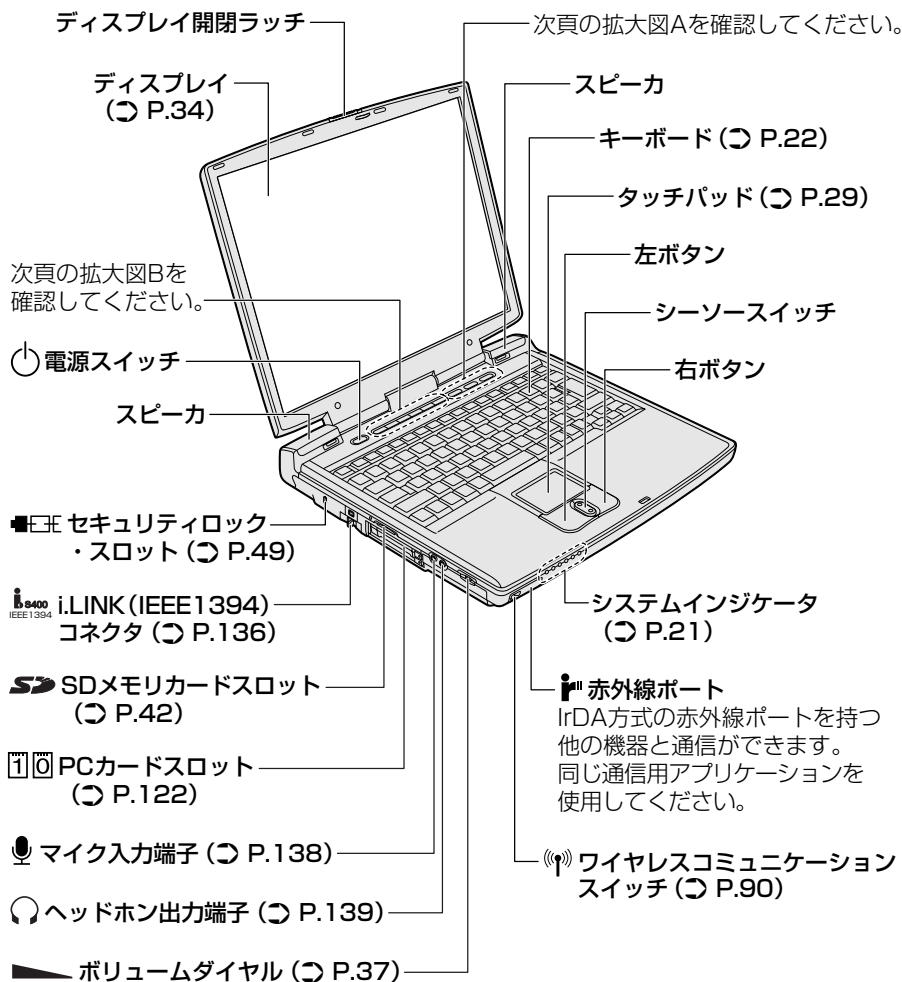
| | | |
|----|-------------|----|
| 1 | 各部の名前 | 16 |
| 2 | システムインジケータ | 21 |
| 3 | キーボード | 22 |
| 4 | タッチパッド | 29 |
| 5 | ディスプレイ | 34 |
| 6 | ハードディスクドライブ | 36 |
| 7 | サウンド機能 | 37 |
| 8 | マルチドライブ | 39 |
| 9 | SDメモ리카ード | 42 |
| 10 | ワンタッチボタン | 48 |
| 11 | セキュリティロック | 49 |

1 各部の名前

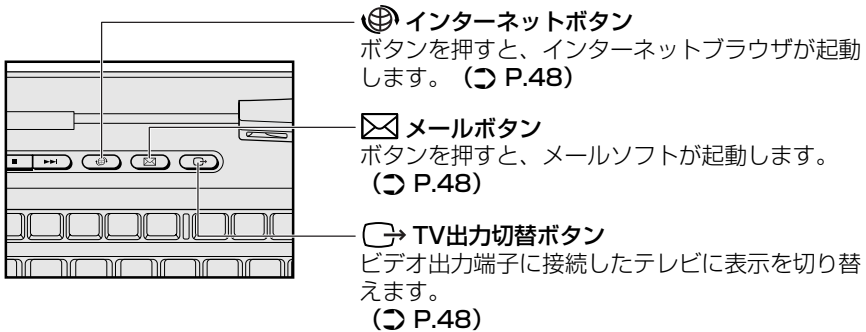
ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

それぞれについての詳しい説明については、各参照ページを確認してください。

1 前面図

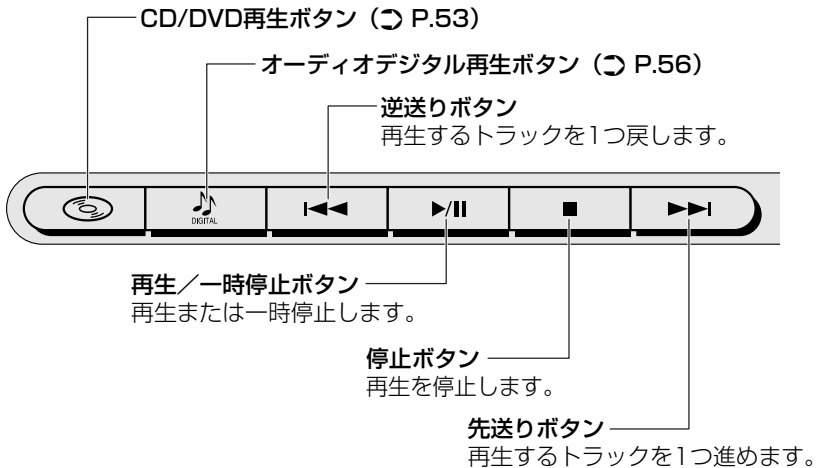


【拡大図 A】

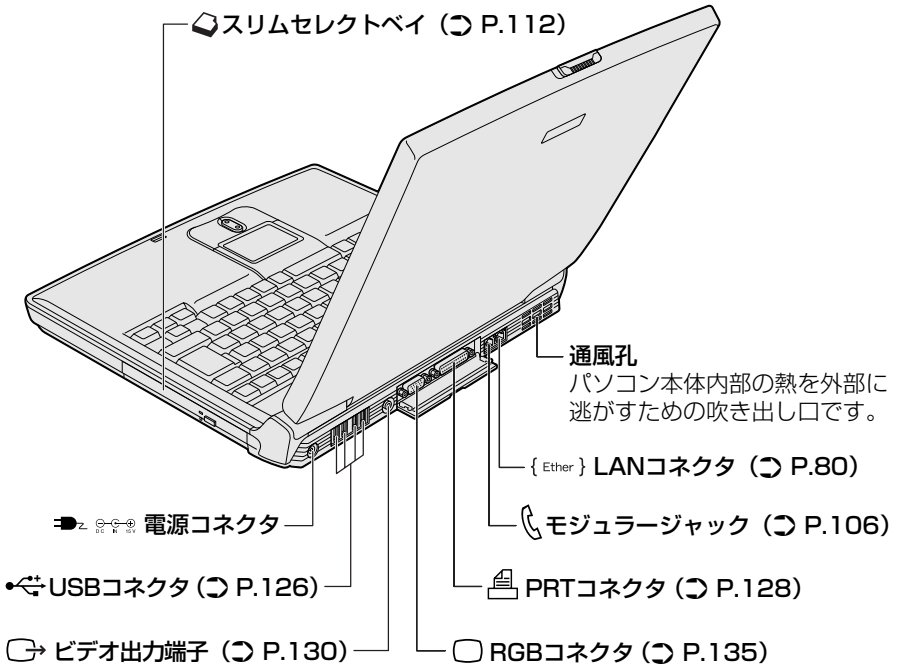


【拡大図 B】

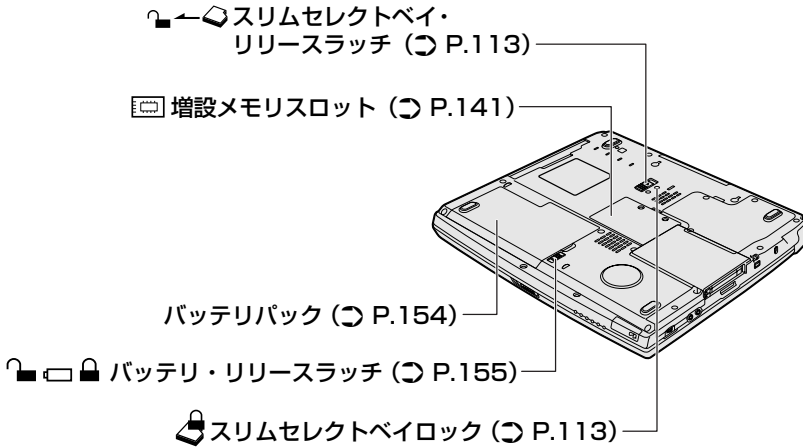
次の6つのボタンを、オーディオプレイボタンと呼びます。



2 背面図



3 裏面図



⚠ 警告

- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用してください。本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や (+) (-) の極性が異なっていることがあるため、過熱・火災・破裂のおそれがあります。
- パソコン本体に AC アダプタを接続する場合、必ず『まずはこれから』に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、AC アダプタのプラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、AC アダプタの DC 出力プラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

⚠ 注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードを AC 電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

日本で使用できる電圧（AC）は、100Vです。
必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

※取得規格は、電気用品安全法です。

【ACアダプタの仕様】

入力：AC100V～240V、90～264VA、50/60Hz

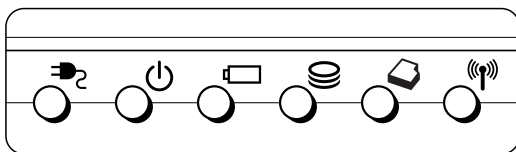
出力：DC15V 4A

パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ







- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5～35℃、湿度 20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所 / 非常に高温または低温になる場所 / 急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため） / 強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く） / ホコリの多い場所 / 振動の激しい場所 / 薬品の充満している場所 / 薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはこりを拭き取ってください。

2 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



【システムインジケータ】

| | | |
|---|-----------------------|---|
|  | DC IN LED | 電源コードの接続 参照 ▶ 『まずはこれから』 |
|  | Power LED | 電源の状態 参照 ▶ 『まずはこれから』 |
|  | Battery LED | バッテリーの状態 参照 ▶ P.149 |
|  | Disk LED | ハードディスクドライブにアクセスしている 参照 ▶ P.36 |
|  | スリムセレクトベイ LED | スリムセレクトベイに取り付けられている機器に アクセスしている 参照 ▶ P.40、54、66 |
|  | ワイヤレス コミュニケーションLED | 無線通信機能の状態 参照 ▶ P.90 |

3 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図

Caps Lock
(キャプスロック)LED
文字入力の大文字ロック状態を示す

Esc(エスケープ)キー
操作を取り消すときに使う

半/全<漢字>キー

Tab(タブ)キー

Caps Lock
(キャプスロック)英数キー

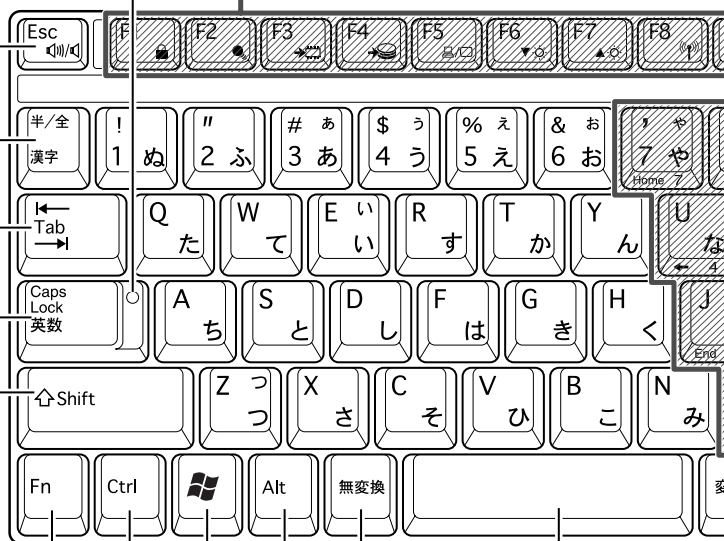
Shift(シフト)キー
アルファベットの大文字、
小文字入力の一時的な切り
替えや記号などを入力する
ときに使う

Fn(エフエヌ)キー
オーバーレイキーを使用するときや
ファンクションキーとの組み合わせに
より、特殊機能を実行するときを使う

Ctrl(コントロール)キー
他のキーと組み合わせて、特定の
操作を実行するときを使う

ウィンドウズキー
Windowsのスタートメニューを表示する
ときや他のキーと組み合わせて、ショート
カットとして使う

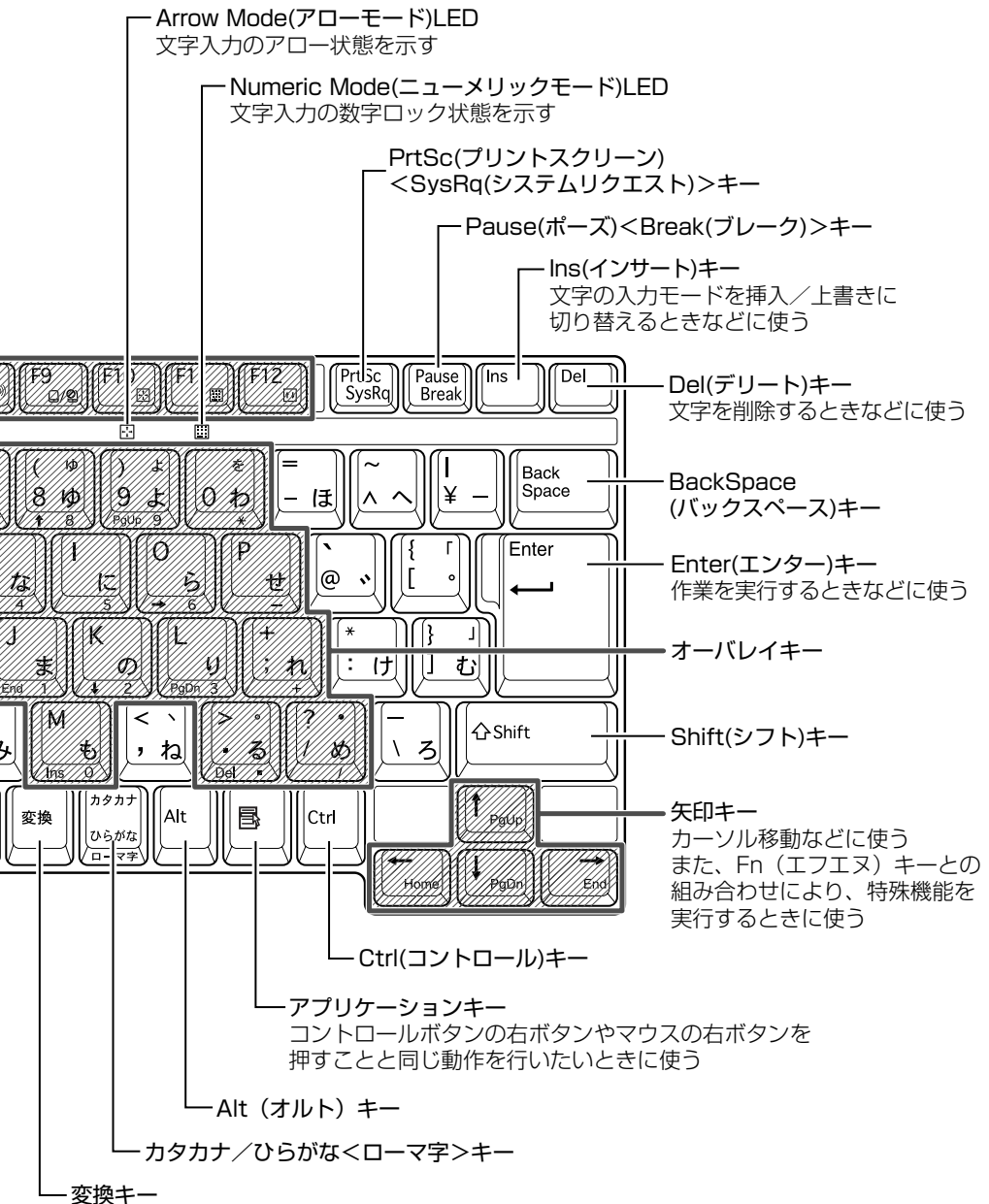
ファンクションキー
特定の操作を実行する
ときなどに使う



無変換キー

Alt(オルト)キー
他のキーと組み合わせて、
特定の操作を実行するとき
に使う

Space(スペース)キー
空白文字を入力するときや、
入力した文字をかな漢字変換
するときを使う



2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LED が点灯します。その場合、他の2つは解除して消灯してください。

【キーシフトインジケータ】

| LED | 切り替えキー | 文字入力の状態 |
|------------------|--------------------------|---|
| Caps Lock LED | (Shift) + (Caps Lock 英数) | 大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力できます。 |
| Arrow Mode LED | (Fn) + (F10) | アロー状態 オーバーレイキーで、キーの前面左側に印刷されたカーソル制御ができます。 |
| Numeric Mode LED | (Fn) + (F11) | 数字ロック状態 オーバーレイキーで、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。 |

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう1度押します。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

| キー | 内容 |
|-----------------------------|---|
| Fn + Esc 〈スピーカのミュート〉 | 内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度Fn + Escキーを押します。 |
| Fn + F1 〈インスタントセキュリティ機能〉 | 画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] または [再開時によろこそ画面に戻る] をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。解除するには、次の操作を行ってください。 ① ShiftキーやCtrlキーを押す、またはタッチパッドを操作する ② ユーザが複数の場合はユーザ名をクリックする ③ パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、Enterキーを押す パスワードによる保護を設定していない場合は、ShiftキーやCtrlキーを押す、またはタッチパッドを操作すると解除できます。 |
| Fn + F2 〈省電力モードの設定〉 | Fn + F2キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 Fnキーを押したまま、F2キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。 |
| Fn + F3 〈スタンバイ機能の実行〉 | Fn + F3キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます。 |
| Fn + F4 〈休止状態の実行〉 | Fn + F4キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると、休止状態が実行されます。 |

| キー | 内容 |
|----------------------------------|---|
| (Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉 | 表示装置を切り替えます。 詳細について 参照▶ 「4章 7 テレビを接続する」 |
| (Fn)+(F6) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を下げる〉 | (Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。 |
| (Fn)+(F7) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を上げる〉 | (Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。 |
| (Fn)+(F8) 〈無線通信機能を切り替える〉 | ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、(Fn)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。 |
| (Fn)+(F9) 〈タッチパッドオン/オフ機能〉 | タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度、(Fn)+(F9)キーを押します。 参照▶ 「本章 4-5 タッチパッドを無効/有効にするには」 |
| (Fn)+(F10) 〈オーバーレイ機能〉 | キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます (アロー状態)。アロー状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。 |
| (Fn)+(F11) 〈オーバーレイ機能〉 | キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます (数字ロック状態)。数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーション (Microsoft Excel など) によっては異なる場合があります。 |
| (Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉 | 一部のアプリケーションで (↑)(↓)(←)(→)キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。 |
| (Fn)+(↑) 〈PgUp (ページアップ)〉 | 一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↑)キーを押すと、前のページに移動できます。 |
| (Fn)+(↓) 〈PgDn (ページダウン)〉 | 一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↓)キーを押すと、次のページに移動できます。 |

| キー | 内容 |
|--------------------------------------|--|
| Fn + ← 〈Home (ホーム)〉 | 一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 ← キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。 |
| Fn + → 〈End (エンド)〉 | 一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 → キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。 |

【**Windows**キーを使ったショートカットキー】

| キー | 操作 |
|--|------------------------|
| Windows + R | [ファイル名を指定して実行] 画面を表示する |
| Windows + M | すべてを最小化する |
| Shift + Windows + M | すべての最小化を元に戻す |
| Windows + F1 | 『ヘルプとサポート』を起動する |
| Windows + E | [マイコンピュータ] 画面を表示する |
| Windows + F | ファイルまたはフォルダを検索する |
| Ctrl + Windows + F | 他のコンピュータを検索する |
| Windows + Tab | タスクバーのボタンを順番に切り替える |
| Windows + Break | [システムのプロパティ] 画面を表示する |

【 特殊機能キー 】

| 特殊機能 | キー | 操作 |
|-------------|---------------------------------------|---|
| タスクマネージャの起動 | Ctrl + Alt + Del | [Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。 |
| 画面コピー | PrtSc | 現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。 |
| | Alt + PrtSc | 現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。 |

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナーで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに点検を依頼してください。


4 タッチパッド

タッチパッドを使いやすく設定できます。

1) タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、「マウスのプロパティ」で行います。

1 「マウスのプロパティ」の設定方法

- 1 通知領域の [Touch Pad] アイコン () をダブルクリックする画面が表示されます。



- 2 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする
各機能の設定については、以降の説明を参照してください。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2) タッピング機能

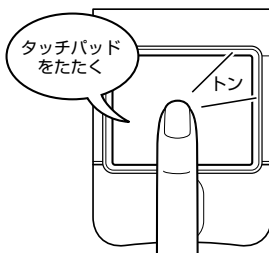
タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

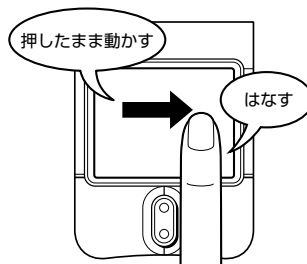
【クリック/ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、[拡張] タブでできます。[マウスのプロパティ] 画面で、次のように操作してください。

- 1 [拡張] タブで [拡張機能の設定] ボタンをクリックする
[拡張機能の設定] 画面が表示されます。



[拡張機能の設定] 画面の [タッチパッド] タブで設定できる機能は、次のようになっています。

| | |
|-----------------|--|
| ボタンの設定 | タッチパッドの左上、右上、左下、右下をタッピングしたときの動作や、各ボタンの動作などを設定できます。 |
| タッチパッド面の設定 | タッチパッドでブラウザの動作をしたり、スクロールをしたりできるよう設定できます。 |
| ポインタ速度とタッピングの設定 | タッチパッド操作でのポインタ速度やタッピング、タッチ感度などの各設定ができます。 |

各項目にポインタをあわせると、画面下部の [説明] フィールドに機能説明が表示されます。

役立つ 操作集

ポインタの形や速度を変える

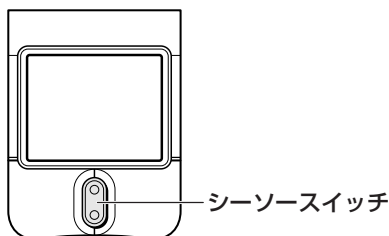
[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。



3 シーソースイッチ

左ボタンと右ボタンの間のボタンを、シーソースイッチと呼びます。シーソースイッチを使用すると、アプリケーションの文書画面などを上下にスクロールすることができます。



シーソースイッチの操作は、次のようになっています。

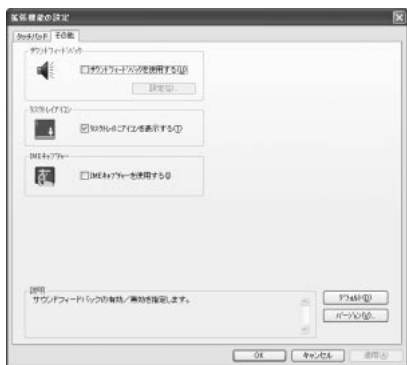
| | |
|-----------|---|
| キーボード側に倒す | 画面が上にスクロールします。 |
| 手前に倒す | 画面が下にスクロールします。 |
| 真下に押す | イーजीランチャ機能を実行します。イーजीランチャ機能を使用すると、現在実行中のプログラム切り替え、インターネットエクスプローラのお気に入りのページへのジャンプ、あらかじめ設定しておいたプログラムの選択／起動を行うことができます。 |

4 その他の設定

〔拡張機能の設定〕画面の〔その他〕タブは、タッチパッドの操作に合わせて音を鳴らしたり、タッチパッドで手書き入力をするなど、いろいろな設定ができます。

〔マウスのプロパティ〕画面で、次のように操作してください。

- 1 〔拡張〕タブで〔拡張機能の設定〕ボタンをクリックする
〔拡張機能の設定〕画面が表示されます。
- 2 〔その他〕タブを選択する




【サウンドフィードバック】

チェックすると、タッチパッドの操作に合わせてサウンドを鳴らすことができます。
[設定] ボタンをクリックすると、[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ] 画面が表示されます。

[サウンド] タブの [プログラムイベント] で「Alps Pointing Device Driver」の各場面のサウンド設定を行ってください。

【タスクトレイアイコン】

チェックすると、通知領域に [Touch Pad] アイコン () が表示されます。
購入時に表示される [タッチパッド] アイコンと同等の機能を持つので、通常は使用しません。

【IMEキャプチャー】

チェックすると、タッチパッドをIMEパッドの手書き入力エリアとして使用できます。

使用中は、ポインタが羽に変わります。使用中に右クリックすると入力エリアがクリアされ、左クリックすると使用が解除されます。

各項目にポインタをあわせると、画面下部の [説明] フィールドに機能説明が表示されます。


5) タッチパッドを無効／有効にするには

[タッチパッドON/OFF] タブでは、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。



【タッチパッドの On/Off】

[有効] をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、[無効] をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。

タッチパッドが無効に設定されている間は、通知領域に無効を示すアイコン () が表示されます。

タッチパッドの有効／無効は、(Fn) + (F9) キーでも切り替えることができます。

(Fn) + (F9) キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると正常に操作できるようになります。

5 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024 × 768 ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。テレビと同じようにブラウン管を発光させて表示する、CRT ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 → CRT ディスプレイの接続について「4 章 8 CRT ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られておりますが、ごく一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在することがあります。故障ではありませんので、あらかじめ了承してください。

1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

| | |
|-----------------|----------|
| 2048 × 1536 ドット | 1,677 万色 |
| 1920 × 1440 ドット | |
| 1600 × 1200 ドット | |
| 1280 × 1024 ドット | |
| 1024 × 768 ドット | |
| 800 × 600 ドット | |

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

1,677 万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1 ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

- 1 **【コントロールパネル】を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする**
[デスクトップの表示とテーマ] 画面が表示されます。
- 2 **【画面解像度を変更する】 をクリックする**
【画面のプロパティ】画面が表示されます。
- 3 **【設定】 タブの【画面の解像度】 で、解像度を変更する**



- 4 **【OK】 ボタンをクリックする**

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

バックライト用蛍光管について


液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。有償にて交換いたします。

6 ハードディスクドライブ


内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。

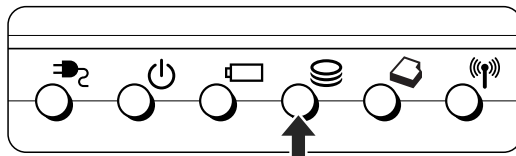
PC カードタイプ（TYPE II）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。


お願い 操作にあたって

- Disk  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起ったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD-R、CD-RW などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

1 ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk  LED が点灯します。



PC カードタイプや i.LINK（IEEE1394）対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk  LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップを取ることを推奨します。

7 サウンド機能

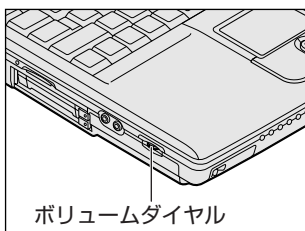
本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、またはWindowsの「マスタ音量」で調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。



2 マスタ音量で調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[マスタ音量] 画面が表示されます。

- 2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

「マスタ音量」の各項目では次の音量が調整できます。

| | |
|----------|---|
| マスタ音量 | 全体の音量を調整する |
| WAVE | MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽CD (Windows Media Player の場合)、DVD-ROM、DVD-Video など |
| CD オーディオ | 音楽CD (Windows Media Player 以外の場合) |

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『マスタ音量のヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[マスタ音量] 画面が表示されます。
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] をチェックする
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[マイク] : 外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に2つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声が「マスタ音量」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

8 マルチドライブ

本製品には、マルチドライブがスリムセレクトベイに取り付けられています。
他の機器（別売り）に差し替えることもできます。

▶ 参照 「4章 2 スリムセレクトベイ機器を差し替える」

マルチドライブはCD-R/RWドライブとDVD-ROMドライブ両方の機能を持ちます。
『安心してお使いいただくために』に、CD / DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。

CD / DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1 CD / DVD について

CD、DVDについて説明します。

1 使用できるCD

読み出しできるCDは、次の種類です。

- 音楽用CD
8cmまたは12cmの音楽用CDが聴けます。
- フォトCD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのもので使用できます。
- CDエクストラ
記録領域を音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできるCDは次の種類です。

- CD-R
書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
CD-Rの書き込み速度は最大24倍速です。24倍速で書き込むためには24倍速書き込みに対応したCD-Rを使用してください。
- CD-RW
CD-RWの書き込み速度は使用するメディアによって異なります。
2 / 4倍速対応（マルチスピード）CD-RWメディアを使用した場合は最大4倍速です。High-Speed CD-RW対応メディアを使用した場合は最大10倍速です。
なお、Ultra Speed CD-RW対応メディアは使用できません。

お願い CD-RW、CD-Rについて

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、次のメーカーのCD-RW、CD-Rを使用することを推奨します。

CD-RW : 三菱化学(株)、(株)リコー

CD-R : 太陽誘電(株)、三井化学(株)、三菱化学(株)、(株)リコー、
日立マクセル(株)

これらのメーカー以外のCD-RW、CD-Rを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。


- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。

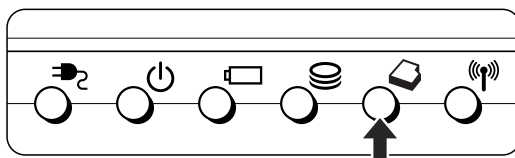
2 使用できるDVD

読み出しできるDVDは、次の種類です。

- DVD-ROM
- DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)

3 マルチドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、マルチドライブが動作しているときは、スリムセレクトベイ  LEDが点灯します。

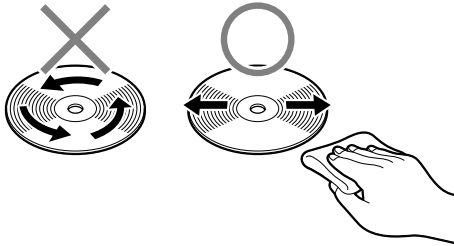


CD / DVD の取り扱いと手入れ

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



9 SD メモリカード

SD メモリカードを SD メモリカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

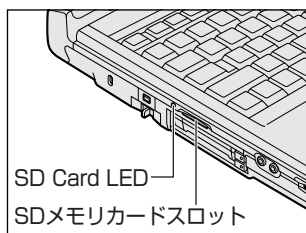
本製品の SD メモリカードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

1 SDメモリカードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LED が点灯します。



2) SD メモリカードのセットと取り出し

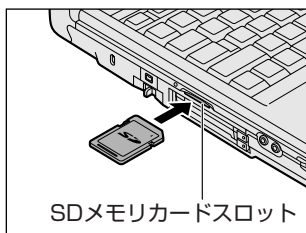
SD メモリカードを SD メモリカードスロットに挿入することを「SD メモリカードをセットする」といいます。

⚠ 注意

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SDメモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データや SD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SDメモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット



1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD メモリカードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

2 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive- ドライブ (E:) を安全に取り外します] (標準値) をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモ리카ードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする

[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

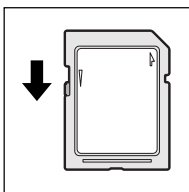
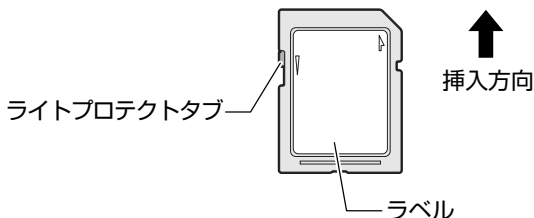
2 [リムーバブルディスク (E:)] (標準値) をダブルクリックする

[リムーバブルディスク (E:)] (標準値) 画面が開き、セットしたSDメモ리카ードの内容が表示されます。

3 SDメモ리카ードを使う前に

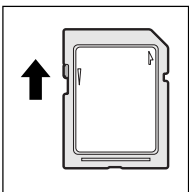
1 ライトプロテクトタブ

SDメモ리카ードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモ리카ードのフォーマット

フォーマットとは、SDメモ리카ードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモ리카ードを使えるようにすることです。

新品のSDメモ리카ードは、SDメモ리카ードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、「東芝SDメモ리카ードフォーマット」またはSDメモ리카ードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

SDメモ리카ードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

⚠ 注意

- Windows 上（[マイコンピュータ] 画面）でSDメモ리카ードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。

お願い

再フォーマットを行うと、そのSDメモ리카ードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモ리카ードを再フォーマットする場合は注意してください。

東芝SDメモ리카ードフォーマットを使ってフォーマットする

ここでは「東芝SDカードユーティリティ」の「東芝SDメモ리카ードフォーマット」を使用してフォーマットする方法を説明します。

お願い

「東芝SDメモ리카ードフォーマット」以外の、SDメモ리카ードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

1 SDメモ리카ードをセットする

- ➡ 参照 SDメモ리카ードのセットについて
「本節 ② SDメモ리카ードのセットと取り出し」

- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝 SD カードユーティリティ] → [東芝 SD メモリカードフォーマット] をクリックする [東芝 SD メモリカードフォーマット] 画面が表示されます。
- 3 [ドライブ] で、フォーマットしたい SD メモリカードがセットされているドライブを選択する



- 4 必要に応じて [フォーマットオプション] でフォーマットの種類を設定し、[スタート] ボタンをクリックする

フォーマットの種類は、次のとおりです。

- 簡易フォーマット
ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。
- 完全フォーマット
SD メモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

メッセージが表示されます。

- 5 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。

フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

- 6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

フォーマットを終了する場合は、[終了] ボタンをクリックしてください。

SD メモリカードの取り扱い

SD メモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SD メモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
SD メモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SD メモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電氣的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SD メモリカードに付属のケースに入れてください。
- SD メモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

10 ワンタッチボタン

本製品には、ワンタッチボタンがあります。

ボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン Internet Explorer
- メールボタン Microsoft Outlook

TV 出力切替ボタンは、ビデオ出力端子に接続したテレビに表示を切り替えることができるように設定されています。

【パソコン本体の電源が入っていないとき】




電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

【スタンバイ状態／休止状態のとき】

スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

1 ボタンを割り当てるアプリケーションを変更する

各ボタンを押して起動するアプリケーションを、自由に設定することができます。

- 1 **【コントロールパネル】を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする**
- 2 **[ 東芝コントロール] をクリックする**
[東芝コントロールのプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 **変更するボタン名の下 [] ボタンをクリックする**
アプリケーションの一覧が表示されます。



- 4 **アプリケーションを選択して、[OK] ボタンをクリックする**

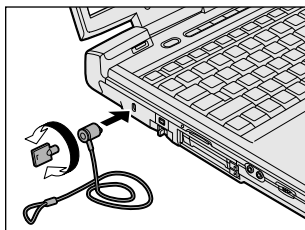
11 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

1 セキュリティロック用機器の取り付け

- 1 セキュリティロック・スロットに市販のセキュリティロック用の機器を接続する



2章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それをCDに書き込んでオリジナルを作成する。写真やDVD-Videoの映像を観る。それを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

| | | |
|---|--------------------|----|
| 1 | 音楽CDを聴く | 52 |
| 2 | 音楽ファイルを聴く | 56 |
| 3 | オリジナル音楽CDを作る | 60 |
| 4 | DVD-Videoを観る | 65 |
| 5 | デジタルカメラの写真を編集／整理する | 71 |
| 6 | 映像を編集する | 74 |

1 音楽 CD を聴く

本製品では Windows を起動している状態でも、また Windows を起動しない状態でも CD を聴くことができます。

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 Windows を起動して音楽 CD を聴く

Windows を起動して音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。

本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- Windows ウィンドウス Media メディア Player プレーヤ

1 再生方法

1 Windows が起動している状態で、音楽 CD をセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

購入時は、音楽 CD を再生するアプリケーションとして「Windows Media Player」が選択されています。

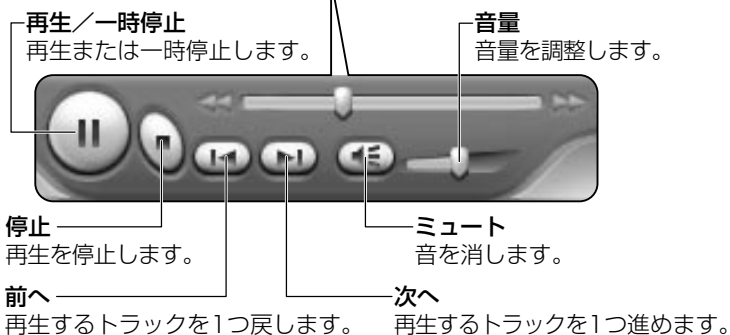
参照 ▶ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 [オーディオ CD の再生 Windows Media Player 使用] が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

「Windows Media Player」が起動します。

3 画面のボタンで操作する

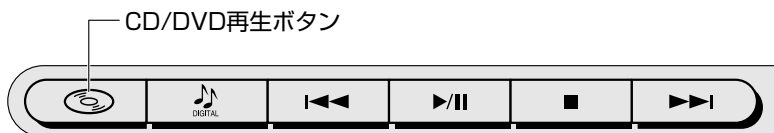
「Windows Media Player」の各操作ボタンの役割は次のとおりです。



CD/DVD 再生ボタンで起動する

CD/DVD 再生ボタンを使って、アプリケーションを起動することができます。

1 CD/DVD 再生ボタンを押す



「Windows Media Player」が起動します。

ヘルプの起動方法

- 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから「ヘルプ」→「トピックの検索」をクリックする

参照 → 「Windows Media Player」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

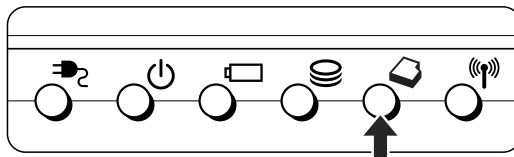
2) Windows を起動しないで音楽 CD を聴く

オーディオプレイボタンを使うと、Windows を起動しないで音楽 CD を再生できます。

1 操作方法

- 1 CD/DVD 再生ボタンを押す

CD/DVD 再生ボタンを 1 秒程押すとドライブの電源が入り、スリムセレクトベイ LED がうすい緑色に点灯します。Power LED は点灯しません。

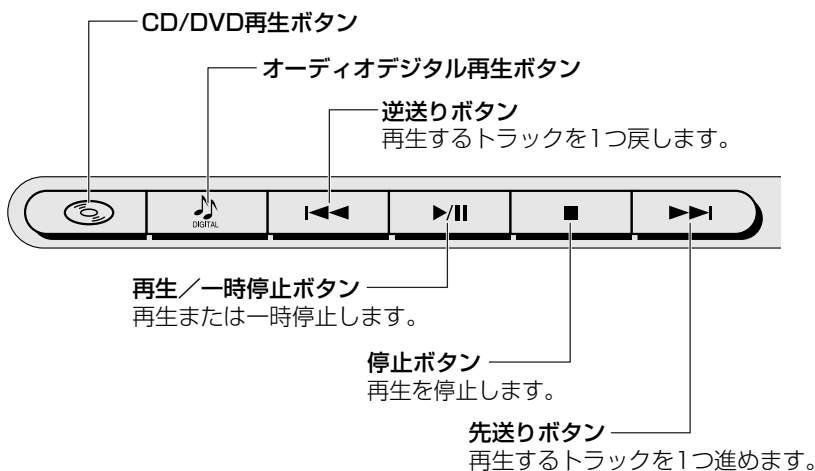


ドライブの電源を入れてから 2 分以上操作がない場合は、自動的にドライブの電源が OFF になり、スリムセレクトベイ LED が消灯します。その場合は、もう 1 度 CD/DVD 再生ボタンを押して電源を入れ直してください。

- 2 音楽 CD をセットする

マルチドライブのイジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。

3 オーディオプレイボタンで操作する



4 終了する場合は、音楽CDを取り出してからCD/DVD再生ボタンを押す

スリムセレクトベイ  LEDが消えるまで押してください。

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式 (.wav) •MIDI形式 (.mid) •MP3形式 (.mp3) など

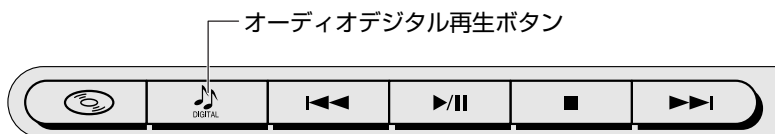
1 音楽再生用アプリケーションを起動する

オーディオデジタル再生ボタンを使ってアプリケーションを起動することができます。

1 起動方法

1 オーディオデジタル再生ボタンを押す

パソコンに電源が入っていない場合は、オーディオデジタル再生ボタンを1秒程押すと電源が入ります。



「Windows Media Player」が起動します。



Windows Media Player の操作について

「本章 1-① Windows を起動して音楽 CD を聴く」

2 Windows Media Player でファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを直接再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

1 メニューバーから【ファイル】 → 【開く】 をクリックする

2 聴きたい曲のファイルを選択し①、[開く] ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

参照▶ 関連情報は「本章 1- ① Windows を起動して音楽 CD を聴く」

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

1 メディアライブラリにファイルを追加する

- 音楽 CD のトラックをコピーする場合
 - ① 音楽 CD をセットする
 - ② [CD からコピー] ボタンをクリックする
 - ③ コピーするトラックをチェックする
 - ④ [音楽のコピー] ボタンをクリックする
- ファイルを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルを追加] をクリックする
 - ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URL を追加] をクリックする
 - ② [開く] 画面で URL またはパスを指定する

2 [メディアライブラリ] ボタンをクリックする



3 [すべてのオーディオ] をクリックする



メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 [新しい再生リスト] ボタンをクリックする



5 [新しい再生リスト] 画面で、再生リストの名を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②



ここでは例として「新規リスト」とします。

[新規リスト] が [再生リスト] フォルダに追加されます。

6 メディアライブラリの中から再生リストに追加するファイルをクリックする



7 [再生リストに追加] ボタンをクリックしてメニューを表示し、目的の再生リストを選択する



ここでは例として「新規リスト」を選択します。

ファイルが再生リストに追加されます。
新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

2 [再生] ボタン (▶) をクリックする

再生が開始されます。

3 オリジナル音楽CDを作る

「Drag'n Drop CD + DVD」は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。

ここでは、オリジナルの音楽CDを作成する手順について説明します。

データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは 2章 2 バックアップをとる』を参照してください。

1 Drag'n Drop CD + DVD を使うために

お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD + DVD」を使用してください。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトは、使用しないでください。

「Drag'n Drop CD + DVD」は、本製品にはインストールされていません。インストールしてから使用してください。

▶ 参照 「Drag'n Drop CD + DVD」のインストールについて
「本項 1 インストール方法」

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

▶ 参照 CD-RW、CD-R について 「1章 8-① CD / DVD について」

- 本製品に添付の「Drag'n Drop CD + DVD」以外のCD-RW、CD-R書き込み用ソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリー駆動で使用しながら書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
- スクリーンセーバなどCPUに負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。
- ウイルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動している場合は、終了させてください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。

▶ 参照 省電力機能について 「5章 2 省電力の設定をする」

- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
- SDメモ리카ード、フロッピーディスク、PCカードタイプのハードディスクドライブ、USB接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
スリムセレクトベイ機器、PCカード、USB対応機器、CRTディスプレイ、i.LINK対応機器、SDメモ리카ード、PRTコネクタに接続する機器
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- オーディオプレイボタンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

「Drag'n Drop CD + DVD」は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

1 インストール方法

1 アプリケーションCD-ROMをセットする

▶ 参照 CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD／DVD』

2 画面の指示に従って「Drag'n Drop CD + DVD」をインストールする

2 Drag'n Drop CD + DVD を使う

インストールされた「Drag'n Drop CD + DVD」は、自動的に起動しデスクトップ上にアイコンが表示されます。

「Drag'n Drop CD + DVD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD] をクリックする
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CD + DVD の基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



— [Music BOX]

音楽CDを作成するときに使用します。
音楽ファイルをこのボックスにドラッグすると [Audio CD Layout Window] が開き、そこで好きな曲を選択すると自分だけの音楽CDを作成できます。



— [DISC Backup BOX]

著作権上コピーが認められているCDのバックアップを作成するときに使用します。



— [Data BOX]

フォルダやファイルをドラッグアンドドロップしてデータCDを作成するときに使用します。

参照 ▶ 詳細について『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』

「Drag'n Drop CD + DVD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。CDに保存されているMP3方式またはWAVE方式の音楽ファイルを使用して音楽CDを作成する場合は、CDから直接 [Music BOX] にドラッグできません。1度ハードディスクに保存してから音楽CDを作成してください。

3 音楽CDを作成する

- 1 音楽CDをドライブにセットする
[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。
- 2 [キャンセル] ボタンをクリックする
[Audio CD (D:)] 画面が閉じます。
- 3 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする


4 [Audio CD (D:)] アイコン () を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽 CD トラック情報] には曲情報が表示されています。

5 [ブランク CD サイズ] を指定する

6 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[再生] ボタン () をクリックすると試し聴きできます。



7 [選択トラックをリストに追加] ボタン () をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。完了すると、[ベストアルバムトラック情報] に抽出した曲が表示されます。



曲順を入れ替えたい場合は、トラックを選択して移動したい位置へドラッグアンドドロップします。

不要なトラックは  ボタンで削除できます。

他の音楽 CD から取り込みたい場合は、ここで音楽 CD を入れ替え、手順 6、7 を繰り返します。

8 ドライブに未使用の CD-R をセットする

9 [書き込み] ボタン () をクリックする

CD への書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、マルチドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD + DVD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

- 1 **【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【Drag'n Drop CD + DVD】 → 【Drag'n Drop CD + DVD Help】 をクリックする**
「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプが表示されます。



参照 「Drag'n Drop CD + DVD」の問い合わせ

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 DVD-Video を観る

本製品は、マルチドライブに DVD-Video をセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、「インタービデオ ウィンディーブイディーInterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。

再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。

- 外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）の設定では、外部ディスプレイに表示されません。

参照▶ 表示装置の切り替え「4章 7-2 テレビに表示する」

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme\st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVD を起動する

「InterVideo WinDVD」は Windows からでも、Windows が起動していない状態（電源が入っていないなど）でも起動することができます。

1 Windowsから起動する

1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照 → DVD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 [DVDムービーの再生 WinDVD 使用] を選択し①、[OK] ボタンをクリックする②



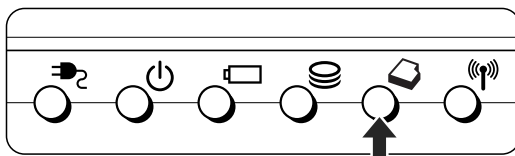
「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 CD/DVD再生ボタンから起動する

Windows が起動していないときに、CD/DVD 再生ボタンで「InterVideo WinDVD」を起動できます。

1 CD/DVD 再生ボタンを押す

CD/DVD 再生ボタンを 1 秒程押すとドライブの電源が入り、スリムセレクトベイ LED がうすい緑色に点灯します。Power LED は点灯しません。



2 DVD-Video をセットする

DVD-Video をセットした場合、「InterVideo WinDVD」が起動します。

Windows が起動するまで、数秒かかる場合があります。

DVD-Video を再生する場合は、続けて [再生] ボタンをクリックしてください。

2) InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

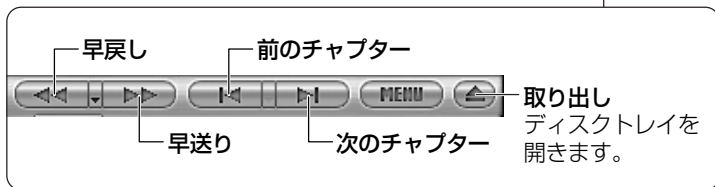
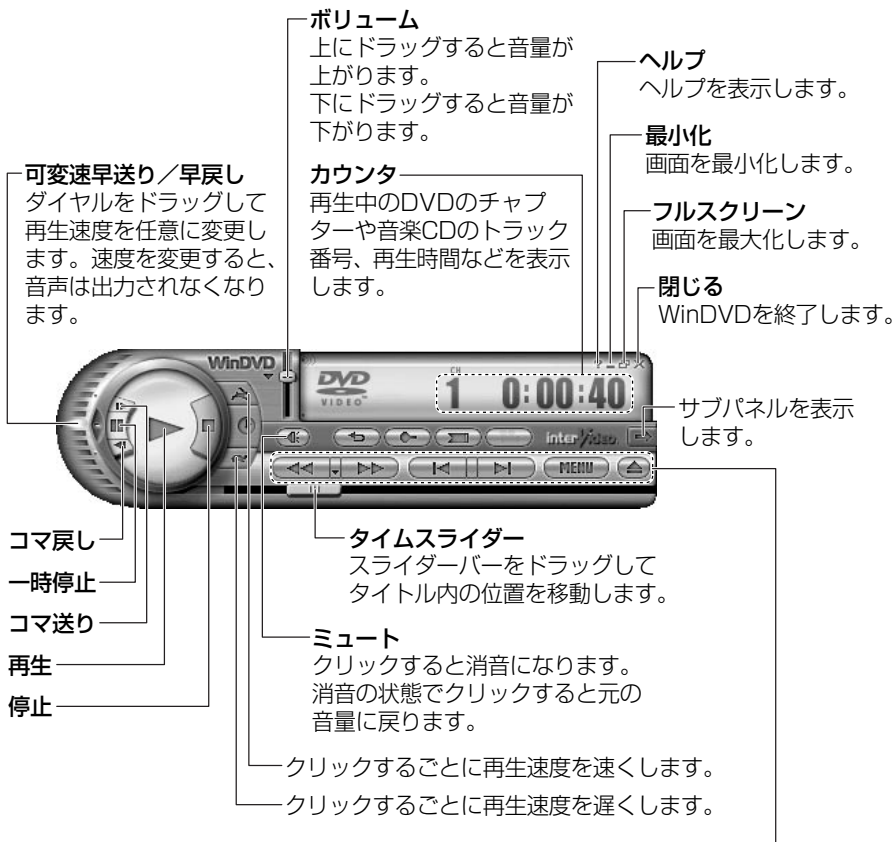
メインウィンドウ
ビデオを表示します。



WinDVDコントロールパネル
DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。
再生の操作でおもに使用するボタンについては、
「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照して
ください。

1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



2 サブパネル

サブパネルで、再生する DVD に応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

【サブパネルの表示と切り替え】

- 1 WinDVD コントロールパネルの [サブパネル] ボタンをクリックする



- 2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

【サブパネルの非表示】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

- 1 [サブパネルを閉じる] ボタンをクリックする



3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は [セットアップ] 画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適用されます。

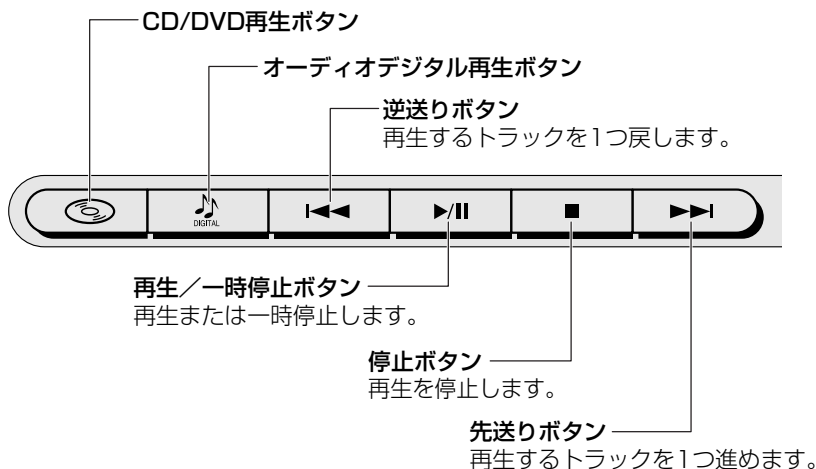
- 1 サブパネルの [セットアップ] ボタンをクリックする



[セットアップ] 画面が表示されます。
各タブで設定を行ってください。

4 オーディオプレイボタンで操作する

DVD-Videoの基本操作は、オーディオプレイボタンを使うこともできます。



5 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Videoの再生画面をテレビに表示させることができます。

テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

参照 ▶ テレビの接続、表示装置の切り替え 「4章 7 テレビを接続する」

ヘルプの起動方法

1 [ヘルプ] ボタン () をクリックする

参照 ▶ 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

5 デジタルカメラの写真を編集/整理する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「^{ウォーカー} デジカメ Walker (Ulead ^{ユーリード} iPhoto ^{アイフォト} Express)」が用意されています。

1 デジカメ Walker を使う

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする

モードを選択します。管理、編集、テンプレートから選択できます。

ショートカットバー
よく使う操作をボタンから行うことができます。

コマンドパネル
モードによってコマンドが変わります。作業領域で行う作業を選択します。

フォト取り出し、一括修正、印刷、共有、Web、Uleadのリンク

管理

サムネイルストリップ
開いているイメージやプロジェクトのサムネイル（一覧表示画像）が表示されます。



オプションパネル
コマンドによって表示が切り替わります。詳しい設定ができます。

作業領域
イメージやプロジェクトを見たり編集したりする場所です。

2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

- 1 **【編集】モード** () でコマンドパネルから **【フォト取り出し】** → **【マイコンピュータ】** をクリックする
オプションパネルに **【参照中のフォルダ】** が表示されます。
- 2  をクリックし、表示されたメニューから **編集する写真のあるフォルダ** をクリックする
オプションパネルにサムネイルが表示されます。
- 3 **編集する画像のサムネイル** をクリックし、**【開く】** ボタンをクリックする



作業領域に画像が表示されます。

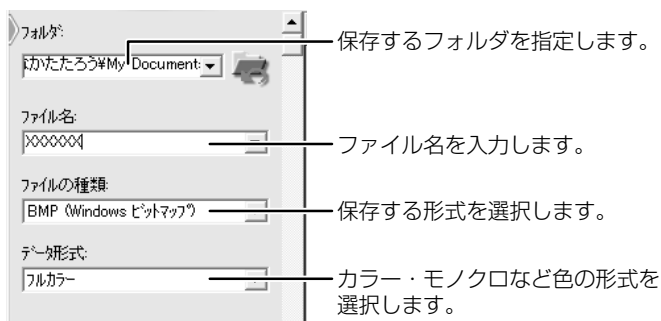
- 4 コマンドパネルから **【編集】** のメニューをクリックし、**画像を加工する**

次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

| | |
|------|--------------------------------|
| 調整 | 画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。 |
| 選択範囲 | 用途や形、色に基づいて範囲を選択します。 |
| テキスト | 画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。 |
| ペイント | 筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。 |
| 装飾 | 縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。 |

3 加工した画像を保存する

- 1 コマンドパネルから [共有] → [保存] をクリックする
オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



- 2 [保存] ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [Ulead iPhoto Express のヘルプ] をクリックする

PDF マニュアルの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Screenbook] をクリックする

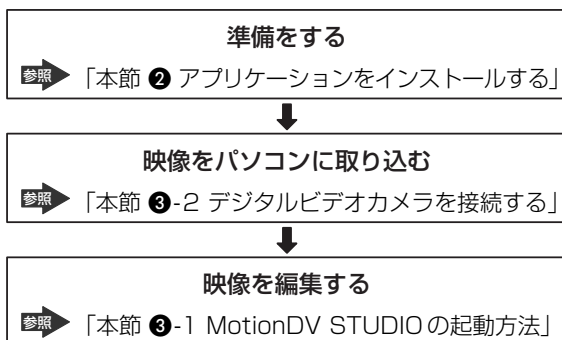
▶ 「デジカメ Walker」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

6 映像を編集する

1 映像編集の流れ

本製品には、映像を編集することができるアプリケーション「MotionDV STUDIO」モーションディーバイ スタジオが用意されています。

映像を編集する流れは、次のとおりです。



2 アプリケーションをインストールする

「MotionDV STUDIO」は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

お願い

アプリケーションのインストールは、アカウントがコンピュータの管理者のユーザで行ってください。

1 MotionDV STUDIOのインストール方法

1 「MotionDV STUDIO」と記載されているCDをセットする

参照 → CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

2 画面の指示に従って「MotionDV STUDIO」をインストールする

3 映像を編集する

「MotionDV STUDIO」を使うと、デジタルビデオカメラの映像を編集できます。デジタルビデオカメラをi.LINK（IEEE1394）コネクタに接続して、撮影した映像をパソコンに取り込みます。特殊効果やタイトル、BGMなどをつけて編集し、さまざまな形式で保存できます。

詳細については、「MotionDV STUDIO」のヘルプを確認してください。

お願い 映像データの編集について

- WinDVD など映像を表示するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示できない場合があります。編集中は他のアプリケーションを終了してください。
- 編集中のプレビューは、内部液晶ディスプレイにのみ表示されます。本体に外部ディスプレイを接続している場合、外部ディスプレイには表示されません。
- 「MotionDV STUDIO」動作中は、画面の解像度・色数の変更は行わないでください。

1 MotionDV STUDIO の起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO] → [MotionDV STUDIO] をクリックする
はじめて「MotionDV STUDIO」を起動したときは、[Panasonic MotionDV STUDIO 使用許諾書] 画面が表示されます。契約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。

TOOL BOX

目的の操作機能を選ぶことができます。ここで選んだ機能に合わせて、ワークエリアに表示される画面が切り替わります。

ワークエリア

接続したデジタルビデオカメラをコントロールしたり、取り込んだ映像を編集するエリアです。それぞれの機能別に画面が分かれています。



ガイダンス画面

TOOL BOXで選んだ機能に関する操作の説明が表示されます。

2 デジタルビデオカメラを接続する

デジタルビデオカメラを使用する場合、次の手順で正しく接続されているかどうか、確認してください。

1 i.LINK (IEEE1394) ケーブルをパソコン本体に接続する

参照 → i.LINK ケーブルの接続

[4章 9 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する]

2 ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する

3 デジタルビデオカメラの電源を入れる

[デジタル ビデオ デバイス] 画面が表示されます。

- 4 [ビデオの編集 Panasonic MotionDV STUDIO 使用] が選択されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



「MotionDV STUDIO」が起動します。

MotionDV STUDIO のヘルプの起動方法

- 1 「MotionDV STUDIO」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [ヘルプ] をクリックする

ヘルプを起動すると「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

▶ 参照 「MotionDV STUDIO」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 80
 - 2 Bluetooth 機能を使う 96
 - 3 内蔵モデムについて 106

1 LANへ接続する

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。

LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

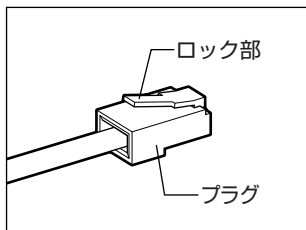
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）で使用するときには、必ずカテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ3のケーブルは使用できません。

10BASE-T規格（10Mbps）で使用するときには、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

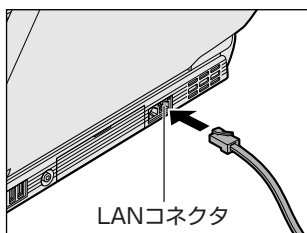
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したものです。数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む



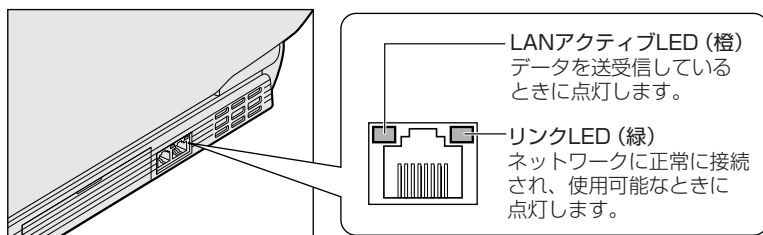
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。




3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

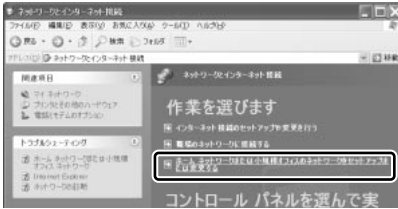
購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

⚠ 注意

- ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

本製品には、無線 LAN 機能が内蔵されています。

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

1 無線 LAN の概要

本製品では、次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能。11、5.5、2、1Mbps の転送レートから選択可能。
- 周波数チャネル選択（2.4GHz 帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- IEEE802.11 規格で規定されている RC4 暗号化アルゴリズムに基づいたデータ暗号化（WEP）

【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11bに準拠する無線ネットワークです。無線LANは最大11Mbpsの転送レートをサポートしています。

- Wireless Ethernet Compatibility Alliance, WECA 認定のWi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。
Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11bに準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- 「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS) を採用し、IEEE802.11bに準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。

-  は Wireless Ethernet Compatibility Alliance, Inc. の認証マークです。

【セキュリティ】

WEP (暗号化) 機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのためWEP機能を設定されることを強くおすすめいたします。


 参照 ▶ WEP機能の設定「本項 4-WEP機能を設定する」


お願い 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で使用してください。無線通信のレンジを最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国で適用される無線規制については、「付録 4-6 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

無線LANネットワークには、次のような機能があります。

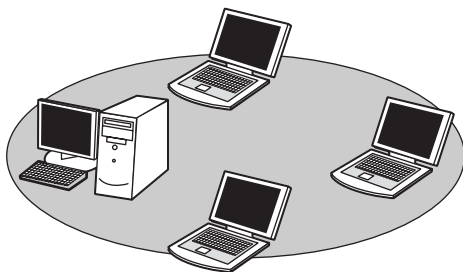
- 無線LANステーション同士を直接ワイヤレス接続する
 参照 ▶ 本項 - 「ピア・ツー・ピアワークグループ」
- 無線LANアクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線LANステーションに接続する

 参照 ▶ 本項 - 「インフラストラクチャネットワーク」

ピア・ツー・ピアワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office (SOHO) など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア・ツー・ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。パソコンなどのデバイス同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような [ファイルとプリンタの共有] などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



ピア・ツー・ピアワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

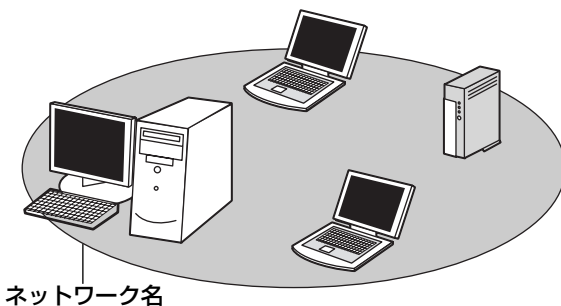
➡ 参照 ▶ ピア・ツー・ピアワークグループの設定について 「本項 3 基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用してネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。ネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

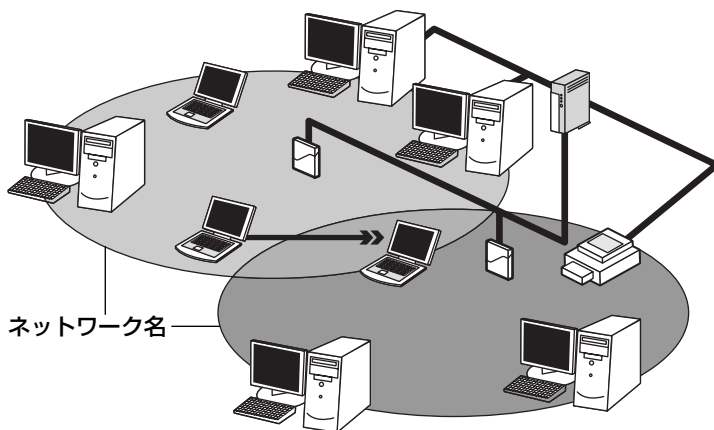
【スタンドアロンネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線LANアクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込むネットワーク形態です。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。


参照 → ネットワーク接続のための設定について「本項 3 基本設定」

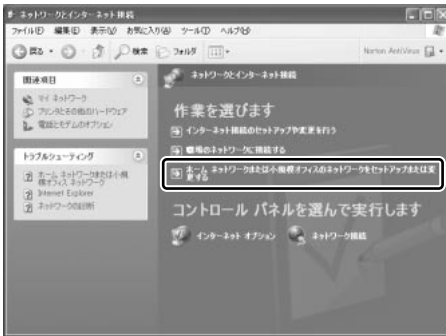
3 基本設定

無線 LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。

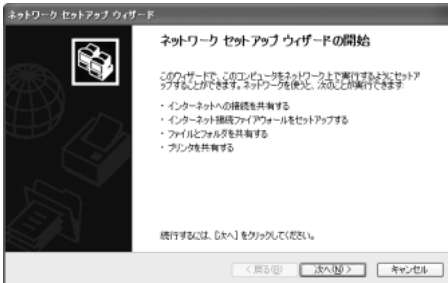
Windows XPは、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。

ネットワーク設定の方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

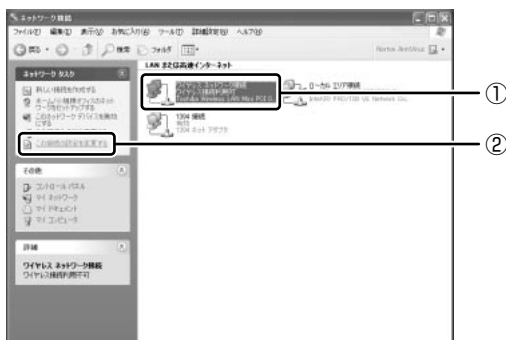


4 詳細設定

無線LANは、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

プロパティ画面の表示

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 2 [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- 3 [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

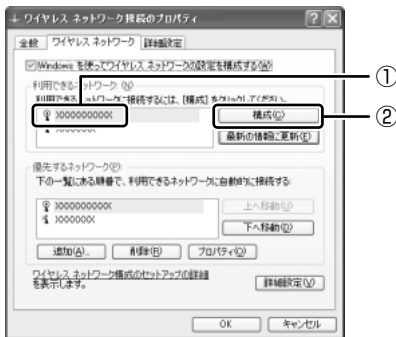
WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEPでの暗号化には 128ビットと 64ビットの 2種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

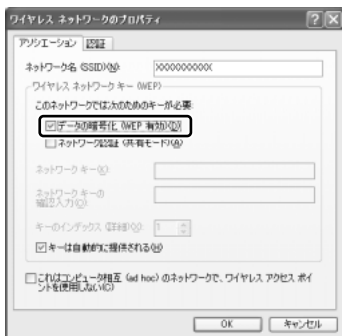
参照 → 「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [利用できるネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[構成] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [データの暗号化 (WEP 有効)] をチェックする



4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合
[キーは自動的に提供される]がチェックされていることを確認する
- ネットワークキーが自動的に提供されない場合
 - ① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす
 - ② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

| セキュリティレベル | 文字の種類と文字数 | |
|------------|-----------|------|
| | 半角英数文字 | 16進数 |
| 高 (128ビット) | 13文字 | 26文字 |
| 低 (64ビット) | 5文字 | 10文字 |

ネットワークキーは「**** (アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

5 無線LANを使う

お願い

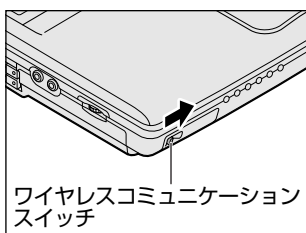
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

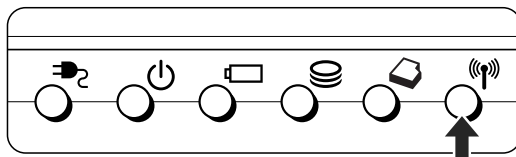
警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（左側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線) LED が点灯します。



無線 LAN 機能が起動します。

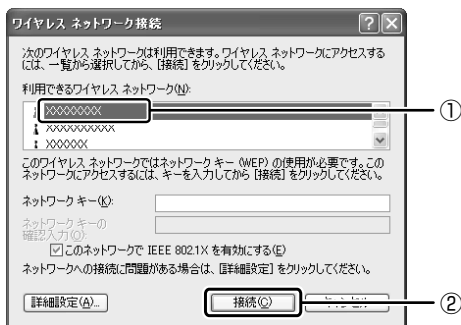
無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコン (無線) を右クリックし、表示されたメニューから [利用できるワイヤレスネットワークの表示] をクリックする

[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

- 3 [利用できるネットワーク] の使いたいネットワークを選択し①、
[接続] ボタンをクリックする②



接続できると、通知領域に [ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました] とメッセージが表示されます。

- 4 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 5 [ネットワークタスク] の [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックする
- 無線LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

役立つ 操作集

通信状態を確認する

[ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをクリックすると [ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線LANの詳しい情報は『ヘルプとサポート』を参照してください。
《サイバーサポート》でも検索できます。

3 ネットワーク設定に便利な機能


本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

無線 LAN アクセスポイントの SSID 名により自動でプロファイルを切り替える機能を使えば、自宅とオフィス間のネットワーク設定を、自動で切り替えることが可能です。

また、LAN ケーブルが抜かれたときに、自動で無線 LAN に切り替える機能も用意されています。


「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windows を起動すると通知領域にアイコン () が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

- 1 **【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【TOSHIBA ConfigFree】 → 【ConfigFree】 をクリックする**


通知領域にアイコン () が表示され、【ConfigFree (ネットワークドクター)】画面が表示されます。

「ConfigFree」を初めて起動したときは、「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降必要のない場合は、【次回から表示しない】をチェックし、【閉じる】ボタンをクリックして画面を閉じてください。

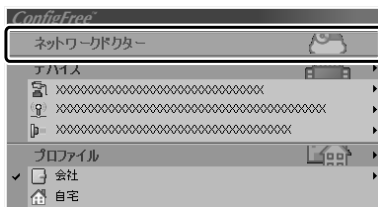
Bluetooth と同時使用する際の【注意】画面が表示された場合は、内容をご確認の上、【OK】ボタンをクリックして画面を閉じてください。

1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

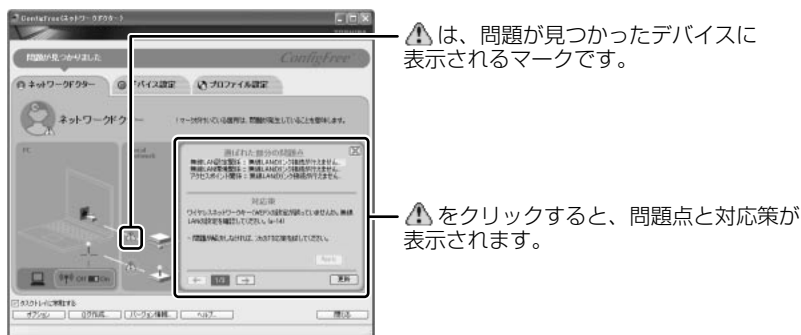
- 1 **通知領域の【ConfigFree】アイコン () をクリックする**
メニューが表示されます。

2 [ネットワークドクター] をクリックする



[ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面が表示されます。


【[ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面】



また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポイントを合わせると、それぞれのデバイスの説明やIPアドレスなどの情報が表示されます。

2 デバイスを切り替える

[ConfigFree] では、次のように操作をして、デバイスを簡単に切り替えることができます。

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () をクリックする
メニューが表示されます。


[デバイス] の下に表示されている項目が使用できるデバイスです。

2 有効/無効にしたいデバイス名にポインタを合わせ①、有効/無効をクリックする②



デバイスの切り替えが行われます。

【 その他のデバイス設定 】

[ConfigFree] アイコン () → [デバイス] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (デバイス設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- 自動切り替え (ケーブル切断)
[ネットワークケーブル切断時に無線 LAN へ切り替えます] をチェックすると、有線 LAN ケーブルが抜けたとき、自動的に無線 LAN が有効になります。
- ネットワークとダイヤルアップ接続
[ネットワーク接続] ボタンをクリックすると [ネットワーク接続] 画面が表示され、ネットワーク接続とダイヤルアップ接続の設定が行えます。

3 ネットワーク設定を切り替える

「ConfigFree」では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

▶ 参照 ▶ プロファイルの登録「本項 3- その他のプロファイル設定」

1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () をクリックする


メニューが表示されます。

[プロファイル] の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

【その他のプロファイル設定】

[ConfigFree] アイコン () → [プロファイル] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (プロファイル設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

● プロファイルの追加

[追加] ボタンをクリックすると、[プロファイルの追加] 画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されません。

● プロファイルの削除

プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、[削除] ボタンをクリックしてください。プロファイルが削除されます。

● 自動切り替え (SSID)


[自動切り替え] ボタンをクリックすると、[自動切り替え] 画面が表示されます。[自動切り替え (SSID)] タブで [自動切り替え (SSID)] をチェックしてください。

接続した無線 LAN ネットワーク (SSID) の設定が登録済みのプロファイルとして検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

この他にも、無線 LAN 機能を内蔵したプロジェクタ (TOSHIBA 液晶プロジェクタ : TLP-T701J / TLP-T700J。2003年3月現在) との通信設定を簡単に行えるクイックコネクト機能などがあります。

「ConfigFree」の詳細については、ヘルプを確認してください。

終了方法

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする
[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

2 Bluetooth 機能を使う

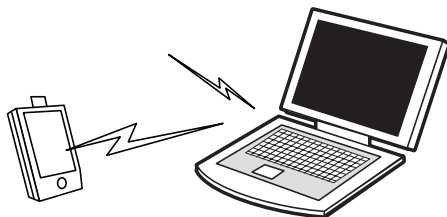
1 Bluetooth とは

ブルートゥース

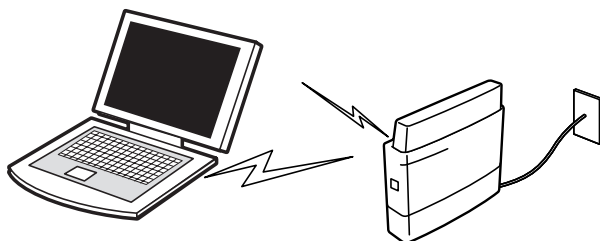
Bluetooth とは、無線通信方法の 1 つです。Bluetooth 対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SD メモリカードタイプの Bluetooth 通信カードを装着した PDA とデータをやり取りしたり、Bluetooth 対応のモデムステーションを利用してインターネットに接続できたりします。

● PDA と…

(使用例)



● Bluetooth 対応のモデムステーションと…



また、Bluetooth 機能機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、ネットワークの中心となる Bluetooth 対応機器 1 台（マスタデバイス）と、それに応答する Bluetooth 対応機器 7 台（スレーブデバイス）で最大で 8 台の構成になります。2 つ以上のネットワークに同時に参加することもできます。

メモ

- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1 の Bluetooth 対応機器と通信ができます。

お願い

- 本製品は、すべての Bluetooth 対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべての Bluetooth 対応機器との動作を保証することはできません。

【通信距離と速度】

本製品は、見通し約 10 mの範囲で通信できます。赤外線通信のように、コネクタを向き合わせる必要はありません。データ通信速度は最大約 720kbps です。通信距離、通信速度は、周囲の電波環境、障害物設置環境、アプリケーションソフトウェア、OS などにより異なります。また、周囲の電波環境などにより通信が切断される場合があります。

【セキュリティ】

Bluetooth 機能を使って通信を行うときに使用する 2.4GHz 帯は、日本をはじめ世界各国で特別な認可なしに使用できる周波数帯域です。そのため、不特定の Bluetooth 対応機器から接続されたり、同じ周波数帯域を使用する他の機器（電子レンジなど）の電波の干渉を受ける可能性があります。

Bluetooth 対応機器には、それぞれ固有の ID が割り振られ、接続時には ID の交換を行ったり、通信中は、使用周波数をランダムに切り替えるなど、他の機器からの干渉を軽減する仕様になっているので高いセキュリティ機能があります。また、本製品にインストールされている「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の「Bluetooth Service Center」で、初めて通信を開始するときに「Bluetooth パスキー」が必要になる設定もできます。Bluetooth パスキーについては、「Bluetooth 東芝ユーティリティ」のヘルプ『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』を参照してください。

参照▶『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』の起動方法
「本節 ②-3-ヘルプの起動」

【Bluetooth 標準規格】

Bluetooth は様々な機器同士で無線通信できることを目標にした無線技術です。そのため、各国・各メーカーの Bluetooth 対応機器でスムーズに通信できるように Bluetooth SIG (Special Interest Group) が無線通信の方式など相互接続に必要な仕様の標準規格を定めています。また、各メーカーは Bluetooth 対応機器の発売にあたり、その Bluetooth 対応機器が Bluetooth 標準規格に適合しているか、認証を受けることを義務付けられています。Bluetooth SIG によって認証された Bluetooth 対応機器には、Bluetooth ロゴが添付されます。この規格に従えば、今後はゲーム機や家電など、さまざまな機器がワイヤレスで接続、コントロールできるようになると言われています。

【 サポートしているプロファイル一覧 】

本製品でサポートしている Bluetooth プロファイルは次のとおりです。

- ダイアルアップネットワーキングプロファイル (DUN)
- FAX プロファイル (FAX)
- LAN アクセスプロファイル (LAP)
- シリアルポートプロファイル (SPP)
- ヒューマンインタフェースデバイスプロファイル (HID)
- ハードウェアケーブルリプレースメントプロファイル (HCRP)
- ファイル転送プロファイル (FTP)
- オブジェクトプッシュプロファイル (OPP)

 各プロファイルの詳細『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』

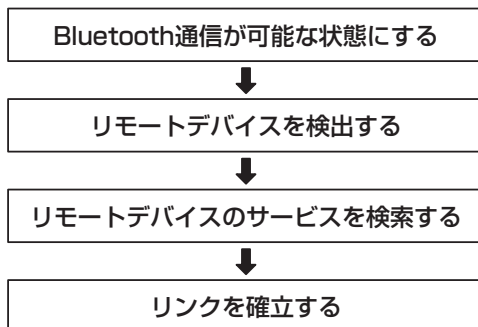
Bluetooth を利用して Pocket PC と ActiveSync を行うことが可能です。シリアルポートを利用する場合には、通常は COM7 ポートを指定することができます。

2 Bluetooth 機能を使って通信する

本製品には、他の Bluetooth 対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth 東芝ユーティリティ」がプレインストールされています。

- Bluetooth 設定
- Bluetooth Manager
- Bluetooth Information Exchanger
- Bluetooth Service Center (Bluetooth サービスセンター)
- Bluetooth Local COM

これらの中心となるのは、「Bluetooth 設定」と「Bluetooth Manager」です。ここでは「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の基本的な使いかたを紹介します。通信するまでの流れは、次のとおりです。



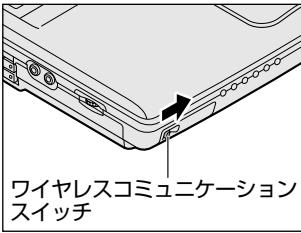
1 Bluetooth通信が可能な状態にする


警告

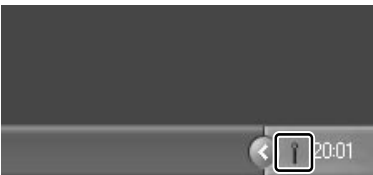
- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（左側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。


Bluetooth機能の起動方法

- 1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする




- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [詳細設定] → [Bluetooth Manager] をクリックする
 「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に「Bluetooth Manager」アイコン（）が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回 Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。
 はじめて起動したときは、「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が何度か表示されます。画面に従って操作してください。
 途中、「Windows XP との互換性を検証する Windows ログテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth 対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としないので、「続行」ボタンをクリックして次の画面に進んでください。




「Bluetooth Manager」アイコン（）はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

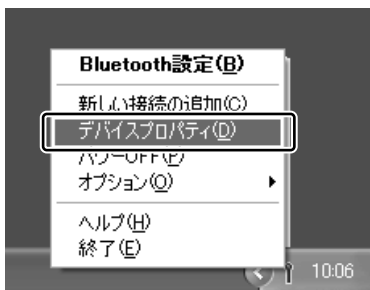
無線 LAN (Wireless LAN) と同時に使用する際の [注意] 画面が表示された場合は、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

Bluetoothの電源が入っていない場合には、[Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックして表示されたメニューから、[パワー ON] を選択して電源を入れてください。

デバイス名の設定

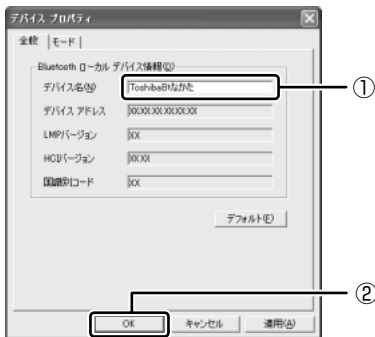
自分のマシンに名前をつけます。他の機器で検出されたときに、ここで設定した名前が表示されます。一度設定した名前を使用するときは、この操作は必要ありません。

- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックする
- 2 表示されたメニューから [デバイスプロパティ] をクリックする



[デバイスプロパティ] 画面が表示されます。

- 3 [デバイス名] に名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②




ここでは、名前を「ToshibaBtなかた」と入力しています。

デバイス名が設定されます。


Bluetooth 設定の起動

「Bluetooth 設定」は、他の Bluetooth 対応機器との通信を管理するユーティリティです。

- 1 Bluetooth 通信が可能な状態にする
- 2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () をダブルクリックする

「Bluetooth 設定」が起動します。


はじめて起動するとき、または、通信を行うことができる他の Bluetooth 対応機器が登録されていないときは、[新しい接続の追加ウィザード] 画面が表示されます。

 **参照** [新しい接続の追加ウィザード] 画面
「本項 2 リモートデバイスを登録する」

2 リモートデバイスを登録する

「Bluetooth 設定」に、通信を行いたい Bluetooth 対応機器を登録します。「Bluetooth 設定」の「新しい接続の追加ウィザード」で、新しい接続の検出を行うと、その時点で通信可能な他の Bluetooth 対応機器がわかります。また、その Bluetooth 対応機器が、どのようなサービス (Bluetooth での通信の種類) を実行できるのかを調べます。

通信相手となる他の Bluetooth 対応機器を「リモートデバイス」と呼びます。

- 1 「Bluetooth 設定」を起動する
- 2 [新しい接続] ボタン () をクリックする

[新しい接続の追加ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。



「Bluetooth 設定」画面

「新しい接続の追加ウィザード」が完了すると、[Bluetooth 設定] 画面が表示されます。

検出されたリモートデバイスの接続アイコンが、接続用アイコンウィンドウに表示されます。



リモートデバイスが登録され、通信を行う準備ができました。

3 Bluetooth通信を接続／切断する

「Bluetooth 設定」に登録されたリモートデバイスは、Bluetooth プロファイルの種類によって、自動的に接続／切断されるものと、手動で接続／切断する必要があるものがあります。

詳しくは、『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』を確認してください。

| Bluetooth プロファイル | 接続／切断方法 |
|-------------------------------------|---|
| ダイヤルアップネットワーキング プロファイル (DUN) | COM 自動接続機能設定を有効にしている場合は、関連するアプリケーションを使用するときに、必要に応じて自動的にリモートデバイスに接続／切断されます。 |
| FAX プロファイル (FAX) | |
| LAN アクセスプロファイル (LAP) | |
| シリアルポートプロファイル (SPP) | |
| ヒューマンインタフェースデバイス プロファイル (HID) | マウスを動かすなどの操作により、自動的に接続されます。 ただし、パソコン側で一時的に切断した後の接続、リモートデバイスを他のパソコンと接続して、記憶されていたアドレスが更新された場合などは、手動で接続する必要があります。 |
| ハードウェアケーブルリプレースメント プロファイル (HCRP) | 手動接続／切断を行う必要はありません。 アプリケーションから印刷を行うことで、自動的に印刷ができます。 |
| ファイル転送プロファイル (FTP) | 手動接続／切断を行う必要はありません。 エクスプローラの右クリックメニューなどからファイル転送ができます。 |
| オブジェクトプッシュ プロファイル (OPP) | 手動接続／切断を行う必要はありません。 エクスプローラの右クリックメニューなどから名刺交換ができます。 |



COM 自動接続機能設定

『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』

ここでは、手動による Bluetooth 接続／切断を行う方法を説明します。

接続方法

手動で Bluetooth 通信を接続するには、次の操作を行ってください。

- 1 接続するリモートデバイスのアイコンを右クリックし①、表示されたメニューから【接続】をクリックする②
接続が確立すると、選択したリモートデバイスのアイコンが接続状態に変わります。



切断方法

手動で Bluetooth 通信をやめるには、次の操作を行ってください。

- 1 接続しているリモートデバイスのアイコンを右クリックし①、表示されたメニューから【切断】をクリックする②



接続が切断されると、選択したリモートデバイスのアイコンが切断状態に変わります。

ヘルプの起動


【クイックスタートガイド】


『クイックスタートガイド』では、Bluetoothの基本的な使用方法について説明しています。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [クイックスタートガイド] をクリックする

【Bluetooth Toshiba Utility User's Guide】

『Bluetooth Toshiba Utility User's Guide』では、「Bluetooth 東芝ユーティリティ」について説明しています。

- 1 「Bluetooth Manager」を起動する
- 2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックする

 参照 「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の問い合わせ
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- 雷雲が近づいたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切替器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年3月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする

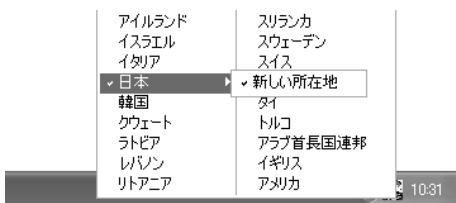
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。


新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

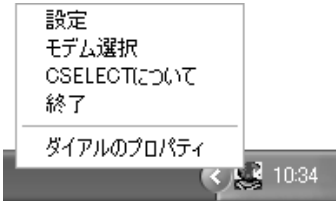
[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。

選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

| | |
|--|---|
| 自動起動モード | システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。 |
| 地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する | 地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。 |
| 場所設定による地域選択 | [電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。 |
| モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示 | モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。 |

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

-
- 1 周辺機器について 110
 - 2 スリムセレクトベイ機器を差し替える 112
 - 3 フロッピーディスクドライブを接続する 115
 - 4 PC カードを接続する 122
 - 5 USB 対応機器を接続する 126
 - 6 プリンタをを接続する 128
 - 7 テレビを接続する 130
 - 8 CRT ディスプレイを接続する 135
 - 9 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 136
 - 10 その他の機器を接続する 138
 - 11 メモリを増設する 141


1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- マウス
- PCカード
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- スキャナ
- デジタルカメラ
- モデム（本製品では内蔵）
- プリンタ
- フロッピーディスクドライブ（本製品では同梱）
- 増設メモリ

*増設の際は、メモリ購入前に「本章 11 メモリを増設する」をご覧ください。

 参照 周辺機器の接続場所について「1章 1 各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。

インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け/取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け/取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタからACアダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け/取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い/低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。

- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

参照 周辺機器の接続場所について「1章 1 各部の名前」

1 ドライバをインストールする

ほとんどの周辺機器は、はじめて使用するときにはドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

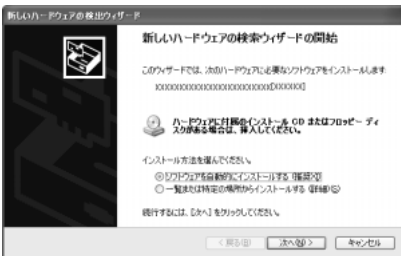
ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 スリムセレクトベイ機器を差し替える

1) スリムセレクトベイ機器について


購入時は、スリムセレクトベイに、マルチドライブが取り付けられています。スリムセレクトベイは、別売りのセカンドバッテリーパックに差し替えることができます。各スリムセレクトベイ機器の詳細については、『スリムセレクトベイ機器に付属の説明書』を確認してください。

⚠ 注意


- スリムセレクトベイにはスリムセレクトベイ機器またはウェイトセーバのいずれかを取り付けてお使いください。
スリムセレクトベイの内部に異物やほこりが入ると、パソコン本体の火災・感電・故障の原因となります。また、内部に触れると感電のおそれがあります。
- スリムセレクトベイ機器には長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。スリムセレクトベイ機器を取りはずす際にスリムセレクトベイ機器が熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからスリムセレクトベイ機器を取りはずしてください。

2) スリムセレクトベイ機器の差し替え

お願い

- 取りはずすときは、スリムセレクトベイ  LED が消灯していることを確認してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

 参照 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

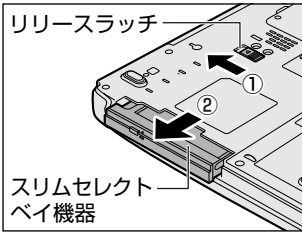
4 スリムセレクトベイ用のネジがロック解除の位置（奥側）になっていることを確認する

ロックの位置（手前側）になっている場合は、ロック解除の位置に付け替えてください。

 参照 スリムセレクトベイ機器のロック

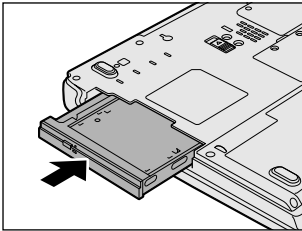
「本項 スリムセレクトベイ機器のロック」

5 スリムセレクトベイ・リリースラッチをスライドし①、スリムセレクトベイ機器を引き出す②



スリムセレクトベイ・リリースラッチをスライドさせた状態で、機器をしっかりつかんで水平に引き出してください。


6 スリムセレクトベイに取り付ける機器を裏返し、しっかり差し込む



カチッと音がして、スリムセレクトベイ・リリースラッチがかかるまで差し込んでください。

7 必要であればスリムセレクトベイ機器をロックする

メモ

通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () からスリムセレクトベイ機器の使用を停止し、取りはずすこともできます。詳しくは『スリムセレクトベイ機器に付属の説明書』を確認してください。

スリムセレクトベイ機器のロック

スリムセレクトベイ機器は、ネジでロックすることができます。購入時、ネジはロック解除の位置（奥側）にとめられています。必要に応じてネジをロックの位置（手前側）に付け替えてください。

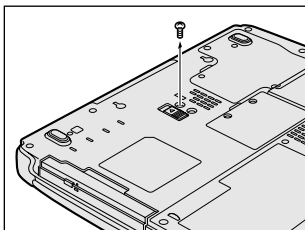
⚠ 警告

- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

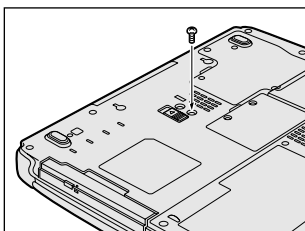
お願い

- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。

1 パソコン本体を裏返し、ネジをスリムセレクトベイのロック解除の位置（奥側）からはずす



2 手順1ではずしたネジをスリムセレクトベイのロック位置（手前側）にとめる



3 フロッピーディスクドライブを接続する

本製品では、同梱のUSB 接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、他のパソコンとデータをやり取りすることができます。

⚠ 注意

- パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDDのLEDが点灯しているとき）に電源を切ったり、USBケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

お願い フロッピーディスクドライブの使用にあたって

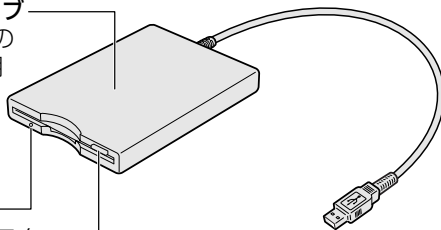
- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。
データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

1) フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブについて説明します。同梱のフロッピーディスクドライブには、専用のドライバは必要ありません。本製品に取り付ければ使用できます。フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしについては、「本章 5 USB 対応機器を接続する」を確認してください。

フロッピーディスクドライブ
3.5型の2HD、2DD形式のフロッピーディスクが使用できます。

FDD LED
点灯中は、フロッピーディスクにアクセスしていることを示します。





イジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すときに、このボタンを使用します。

役立つ 操作集


パソコンをフロッピーディスクから起動する場合

購入時の設定では、ハードディスクドライブからシステムを起動します。フロッピーディスクから起動したい場合、次の方法で変更できます。

【常にパソコンをフロッピーディスクから起動する場合】

- ① [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [ 東芝 HW セットアップ] をクリックする
- ③ [OSの起動] タブで [OSの起動] を [FDD] が最初になるように設定する
- ④ [OK] ボタンをクリックする

【一時的にパソコンをフロッピーディスクから起動する場合】

- ① (F12) キーを押しながら、電源スイッチを押す
[起動ドライブ選択] 画面が表示されます。
- ② (←) または (→) キーで、フロッピーディスクのアイコン  を選択し、(Enter) キーを押す

2) フロッピーディスク

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 使用できるフロッピーディスク

本製品に同梱のフロッピーディスクドライブで使用できるフロッピーディスクには3種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

| フロッピーディスクの種類 | 1枚に保存できる容量 | 読み出し/書き込み | フォーマット |
|--------------|------------|-----------|--------|
| 2DDタイプ | 720KB | 可 | 不可 |
| 2HDタイプ | 1.2MB | 可 | 不可 |
| 2HDタイプ | 1.44MB | 可 | 可 |

 参照 フォーマットについて「本節 ③ フロッピーディスクを使う前に」

ソニー（株）製の3.5型フロッピーディスク（2DD / 2HD）を使用することを推奨します。

他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかつたり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

2 フロッピーディスクの内容を確認する

1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

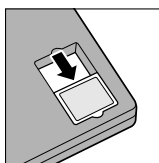
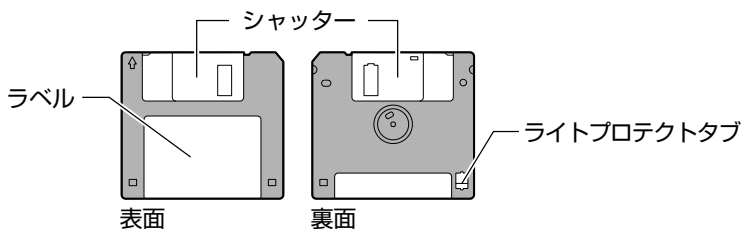
2 [3.5インチ FD (A:)] をダブルクリックする

[3.5インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3) フロッピーディスクを使う前に

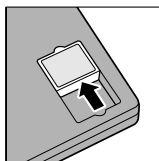
1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの起動するのに必要な基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

お願い

フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマットできるのは、2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクのみです。2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクであることを確認してからフォーマットしてください。

次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows 以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOS の起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかもチェックされます。

【クイックフォーマット】


以前に Windows でフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

【MS-DOS の起動ディスクを作成する】

フォーマットまたはクイックフォーマットを行った後、MS-DOS の起動ディスクとして必要な情報をフロッピーディスクに書き込みます。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

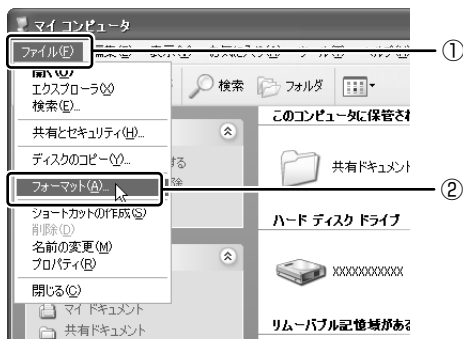
3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

- 1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 3 [ 3.5 インチ FD (A:)] をクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【フォーマット】をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面が表示されます。

5 必要に応じて【フォーマットオプション】を設定し、【開始】ボタンをクリックする

クイックフォーマットを行う場合は、【クイックフォーマット】をチェックしてから、【開始】ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする


フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面で【閉じる】ボタン () をクリックしてください。

フロッピーディスクドライブの手入れ

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

| 環境 | 使用時 | 保管時 |
|----|-------|-------|
| 温度 | 5～35℃ | 4～53℃ |

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

4 PC カードを接続する

目的に合わせた^{ピーシー}PCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- ^{スキャシー}SCSI カード
- 無線 LAN カード
- 携帯電話用データ通信カード など

1 PC カードを使う前に

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用しているPCカードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

本製品は、PC Card Standard 準拠のTYPE II対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。

注意

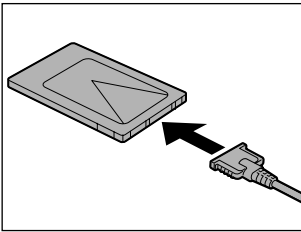
- ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2) PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

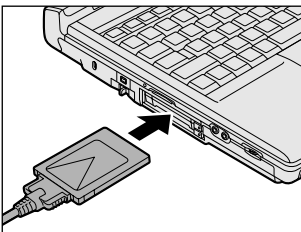
1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。


カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているかシステムのデバイスマネージャなどで確認してください。


2 取りはずし

お願い

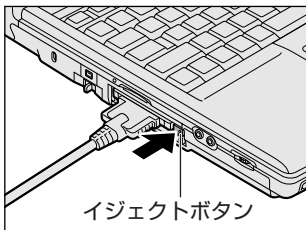
取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PCカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする

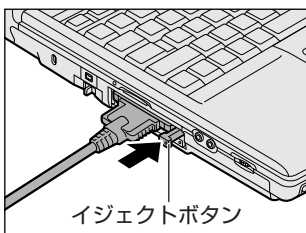
- ③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



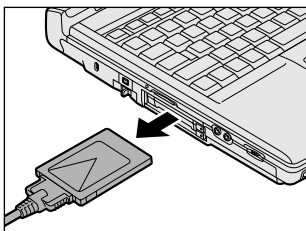
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう1度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

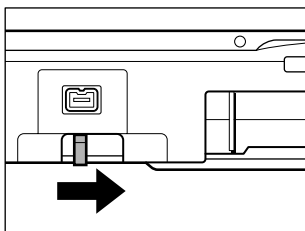
イジェクトボタンを収納します。

3 PCカードをロックする

PCカードロックスイッチや別売りのセキュリティロック機器を使用すると、PCカードが取りはずせないようにできます。PCカードを取り付けた後、必要なときのみ行ってください。

【ロックする】

1 PCカードロックスイッチを有効（右側）にする



【セキュリティロック機器を使用する】

別売りのセキュリティロック機器を使っても、PCカードロックを固定できます。

| | |
|-----------------------|------------------|
| | PCカードの取り付け／取りはずし |
| PCカードロックのみ有効 | できない |
| セキュリティロックのみ有効 | できる |
| PCカードロックとセキュリティロックの両方 | できない |

PCカードの取り付け／取りはずしを行う場合は、セキュリティロック→PCカードロックの順に解除してください。

5 USB 対応機器を接続する

ユーズビー

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

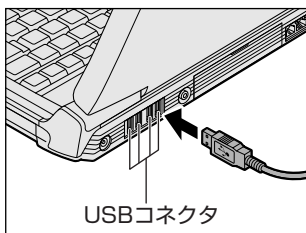
- 同梱のフロッピーディスクドライブ
- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む



この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器)] を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

6 プリンタを接続する

PRT コネクタにパラレルインタフェースを持つプリンタを接続すると、印刷ができます。また、USB コネクタに USB 対応のプリンタも接続できます。接続や設定についての詳細は『プリンタに付属の説明書』を確認してください。

参照 → USB 対応機器について「本章 5 USB 対応機器を接続する」

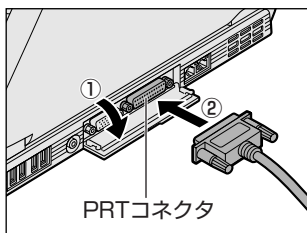
1 プリンタの接続と設定

プリンタの取り付け／取りはずしと、設定方法について説明します。

1 取り付け

PRT コネクタに接続する場合、プリンタとパソコンの電源を切った状態で接続してください。

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、プリンタケーブルのプラグを PRT コネクタに差し込む②



- 2 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタに差し込む
プリンタの電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。

2 プリンタの設定

【ドライバをインストールする】

プリンタを使うには、ドライバのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、プリンタに添付のフロッピーディスクや CD-ROM を使う場合があります。

プラグアンドプレイに対応している場合は、初めてプリンタを接続すると [プリンタの追加ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。



プラグアンドプレイに対応していない場合は [プリンタの追加ウィザード] を起動するか、『プリンタに付属の説明書』を読んで、インストールを行ってください。

[プリンタの追加ウィザード]は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [プリンタを追加する] をクリックする

【プリンタポートモードの設定】

使用するプリンタに合わせてプリンタモードの設定が必要です。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝HWセットアップ] をクリックする
- 3 [プリンタ] タブの [プリンタポートモード] で、使用するプリンタに合ったモードに設定する
 - ECP (標準値) ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは、ECP に設定します。
 - 双方向 双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。

3 取りはずし

- 1 パソコン本体とプリンタに差し込んであるプリンタケーブルを抜く
使用しているプリンタに合わせて、プリンタの電源を切ってください。

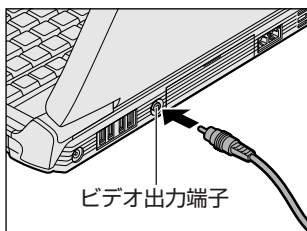
7 テレビを接続する

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

市販のビデオケーブルを使用してください。

1 取り付け

- 1 ビデオケーブルのプラグをパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む
音声はパソコンのスピーカーで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 テレビに表示する

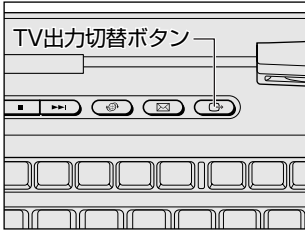
テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間



【方法1—TV出力切替ボタンを使う】

TV出力切替ボタンを押すと、表示装置がテレビに切り替わります。



もう1度TV出力切替ボタンを押すと、内部液晶ディスプレイに表示が切り替わります。

【方法2—画面のプロパティで設定する】

- 1 【コントロールパネル】を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 4 [nView ディスプレイモード] タブで次のいずれかに設定する



● 内部液晶ディスプレイだけに表示

- ① [nView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [デジタル ディスプレイ] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

●内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- ① [nView モード] で [クローン] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [ディスプレイ] で [nView ディスプレイ 2 : アナログディスプレイ] を選択する
- ③ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ④ [適用] ボタンをクリックする
- ⑤ [nView モード] で [2] と表示されている画像をクリックする
- ⑥ もう 1 度 [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [詳細] を選択する
- ⑦ テレビの形式を選択する
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
- ⑧ [OK] ボタンをクリックする

●テレビだけに表示

- ① [nView] モードで [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

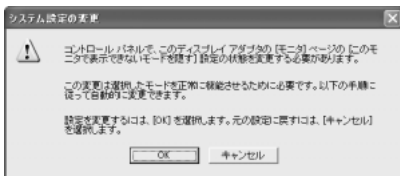
5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

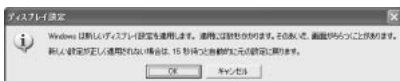
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

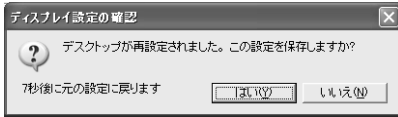
● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【方法3— (Fn) + (F5) キーを使う】

(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn) キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置がLCD (内部液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、(Fn) + (F5) キーを3秒間押し続けると、表示装置がLCDに戻ります。これは最初に (Fn) + (F5) キーを押したときのみ有効です。



- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
- CRT CRTディスプレイだけに表示
内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、CRTディスプレイだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD / TV 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

▶ 参照 → CRTディスプレイについて「本章 8 CRTディスプレイを接続する」

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windows の ログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザーの切り替え] で切り替えた場合は、(Fn) + (F5) キーで表示装置を切り替えられません。

▶ 参照 → ユーザアカウントの切り替え

『基本をマスター 4章 2-② ユーザアカウントを切り替える』

3 取りはずし

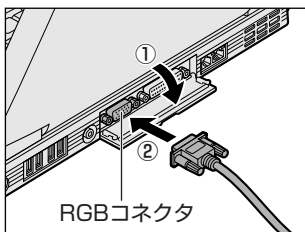
- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

8 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、CRT ディスプレイに表示させることができます。パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

2 表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力機能により CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法 2」や「方法 3」を参考にしてください。「方法 2」を参考にする場合は、[nView ディスプレイモード] タブの [デバイス設定] で「アナログ ディスプレイ」を選択してください。

▶ 参考 ▶ テレビ表示について「本章 7-2 テレビに表示する」

3 表示について

CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

▶ 参考 ▶ ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

9 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

アイリンク アイリフイーイイチサンキョーコン
i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ など

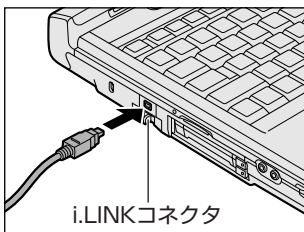
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

1 ケーブルのプラグをパソコン本体のi.LINK コネクタに差し込む





コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 ケーブルのもう一方のプラグをi.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずすi.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

* デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

2 パソコン本体とi.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する

2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

* 機種によっては接続できません。

10 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) マイクロホン

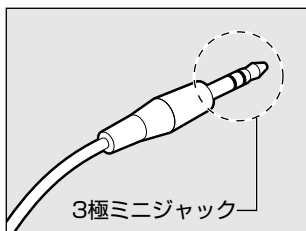
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品では、モノラル録音のみできます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

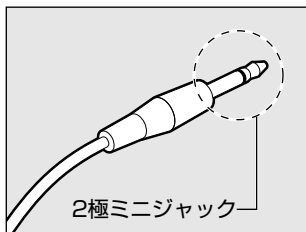
▶ 参照 サウンド機能について「1章 7 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



プラグは3.5mm φ 3 極ミニジャックタイプが使用できます。



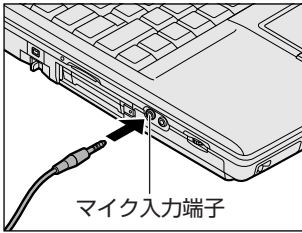
3.5mm φ 2 極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

▶ 参照 アプリケーションの問い合わせ先について
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。

2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。


ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

 [サウンド機能について「1章 7 サウンド機能」](#)

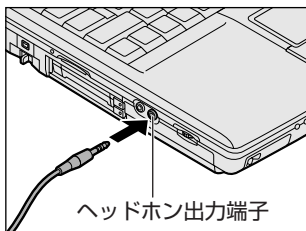
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、またはWindowsの「マスタ音量」で調節してください。

マスタ音量は、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。

11 メモリを増設する

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、あらかじめ256MBまたは512MBのメモリが取り付けられています。

別売りの増設メモリを空いているスロットに取り付けたり、購入時のメモリと交換することで容量を増やすことができます。取り付けることのできるメモリ容量は、1つのスロットにつき512MBまでです。

メモリを増設する際は、「東芝 PC 診断ツール」でお使いのパソコンのメモリ容量を確認のうえ、適切なメモリを取り付けてください。

 「東芝 PC 診断ツール」について 「本節 3 メモリ容量の確認」

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後や、LANのウェイクアップ機能を使用しているときはやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分だけではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはせず際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、警告音（ビープ音）が鳴ります。スロットAに取り付けた場合は「ピー・ピッ」と、スロットBに取り付けた場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

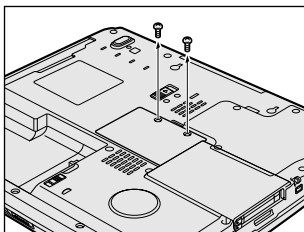
▶ 参照 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはせず

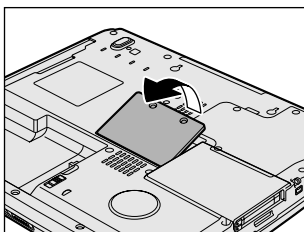
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

▶ 参照 バッテリーパックの取りはずし「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

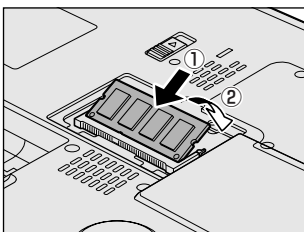
4 増設メモリカバーのネジ2本をはす



5 増設メモリカバーをはす

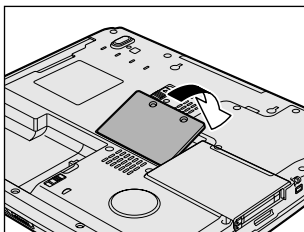


6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



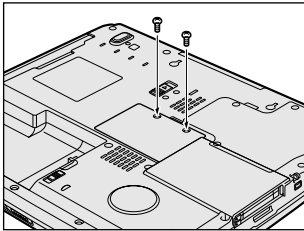
増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

7 増設メモリカバーをはめる



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 手順4ではずしたネジ2本でとめる



9 バッテリパックを取り付ける

参照▶ バッテリパックの取り付け「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照▶ メモリ容量の確認について「本項 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

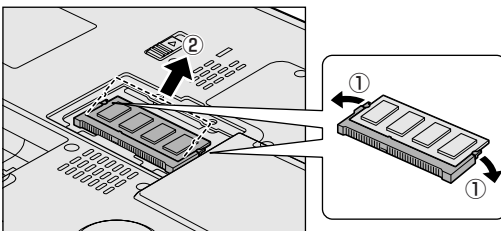
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照▶ バッテリパックの取りはずし「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ2本をはずす

5 増設メモリカバーをはずす

6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

7 増設メモリカバーをはめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 手順4ではずしたネジ2本でとめる

9 バッテリパックを取り付ける

参照▶ バッテリパックの取り付け「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する

参照▶ 「東芝PC診断ツール」について
『困ったときは 1章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

5章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。


-
- 1 バッテリーについて 148
 - 2 省電力の設定をする 156
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 162

1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。またスリムセレクトベイにセカンドバッテリーパック（別売り）を取り付け、標準バッテリーパックとあわせて使用すると、より長い時間バッテリー駆動で使用することができます。

 参照 セカンドバッテリーパック

『セカンドバッテリーパックに付属の取扱説明書』

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

警告

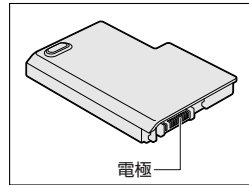
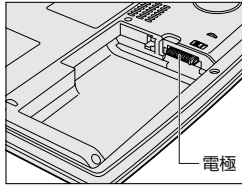
- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PA3259J-1BAS）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

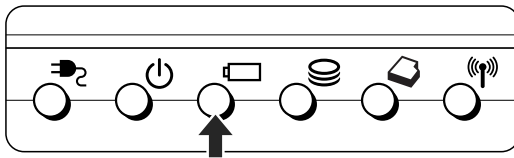



1) バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する


ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。



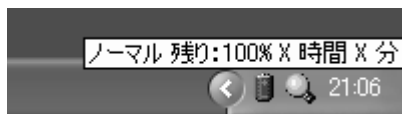
バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。Battery  LED は次の状態を示しています。

| | |
|---------|---|
| 緑 | 充電完了 |
| オレンジ | 充電中 |
| オレンジの点滅 | 充電が必要 |
| 消灯 | ・ バッテリーが接続されていない ・ AC アダプタが接続されていない ・ バッテリー異常 |


2 通知領域の【省電力】アイコンで確認する


通知領域の【省電力】アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。




 参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や【省電力】アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

 参照 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの減少を示しています)
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力ユーティリティの【アラーム】タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える
購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

| 状態 | 時計用バッテリー |
|--------------------------|----------|
| 電源 ON (Power LED が緑色に点灯) | 8 時間以上 |
| 電源 OFF (Power LED が消灯) | 充電しない |

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN への LED が緑色に点灯して Battery への LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery への LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery への LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN への LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- セカンドバッテリーパック（別売り）を取り付けている場合は、標準のバッテリーパックから充電が開始されます。

【 充電完了までの時間 】

| 状態 | 電源 ON | 電源 OFF |
|----------------|-----------------|----------|
| 標準のバッテリーパック | 約 6.4 ～ 15.7 時間 | 約 3 時間 |
| セカンドバッテリーパック*1 | 約 3.8 ～ 8.8 時間 | 約 2.5 時間 |

*1 セカンドバッテリーパックは別売りです。

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

【使用できる時間】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

| 測定法 | | JEITA 測定法 1.0 |
|------|-------------------------------|---------------|
| 動作時間 | 標準のバッテリーパック | 約 6.8 時間 |
| | 標準のバッテリーパックとセカンドバッテリーパック*1の両方 | 約 11 時間 |

*1 セカンドバッテリーパックは別売りです。

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていき、放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

| パソコン本体の状態 | 保持時間 |
|-------------|--------|
| 電源切断または休止状態 | 約 28 日 |
| スタンバイ | 約 5 日 |

2 バッテリーを長持ちさせるには


- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる 電源が入らない場合は手順 4 へ進んでください。

3 5分程度バッテリー駆動を行う


この間、Battery  LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LEDが緑色に点灯してBattery  LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。




5 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery  LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN  LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする  「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する  「本章 2 省電力の設定をする」

3) バッテリーパックを交換する

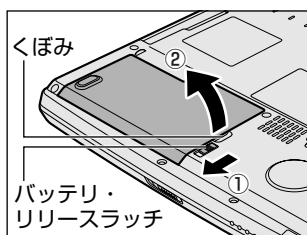
バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

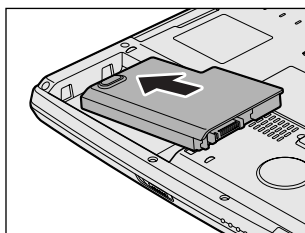
1 取りはずし／取り付け

- 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体からACアダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

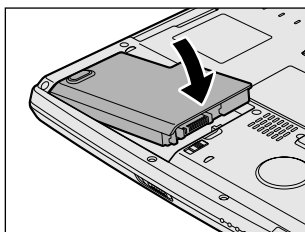
- 4 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、くぼみに指をかけてバッテリーカバーごとバッテリーパックを取りはずす②



- 5 交換するバッテリーパックをコネクタに斜めに挿入する



- 6 カチッという音がするまで静かに差し込む



2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

1 省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。
ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 省電力ユーティリティの起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。



[電源に接続] [バッテリーを使用中]

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] はACアダプタ接続/バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。
購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

| | |
|------------|---|
| フルパワー | 最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続]（ACアダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。 |
| ロングライフ | 消費電力を優先して省電力制御を行います。 |
| ノーマル | 性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中]（バッテリー駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。 |
| ハイパワー | 性能を優先して省電力制御を行います。 |
| DVD再生 | 性能と消費電力を両立してDVDの再生などに適した省電力制御を行います。 |
| プレゼンテーション | 性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。 |
| スーパーロングライフ | 消費電力を最優先にして省電力の制御を行います。 |

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。


【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[～のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【省電力モードの削除】


- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコン () が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【タスクバーにCPU周波数の状態を表示する】

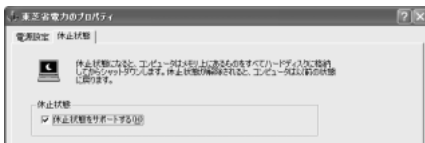
[タスクバーにIntel SpeedStep(R) Technologyの状態を表示する] をチェックする () と現在のCPU周波数の状態を示すアイコン () が通知領域に表示されます。

CPU周波数アイコンをクリックすると、CPU周波数を変更することができます。

3 【休止状態】タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。



▶ 参照 休止状態について「本項 4- [動作] タブ」

4 省電力モードの詳細設定

1 [2]の【電源設定】タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、内部液晶ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・ 誤った使いかたをしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
 - ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。
Disk LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

【 休止状態 】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

【 入力を求める 】

[終了オプション] 画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

【 電源オフ 】

Windows を終了して電源を切ります。

[スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める] をチェックする（）と、Windows のパスワードを設定している場合には、復帰するときに Windows パスワードの入力が必要になります。

【アラーム】 タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。


[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリー使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

【デバイスの設定】 タブ



省電力モードで使用するとき、デバイスを有効／無効にする設定を行います。

5 複数ユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

 参照 複数のユーザで使用する場合は
『基本をマスター 4 章 Windows のユーザ設定』

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリおよび周辺機器の取り付け／取りはずしは行わないでください。また、「東芝モバイルエクステンション」の「ウォームドocking／アンドockingをサポートする」のチェックをはずした場合は、スリムセレクトベイ機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・ スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
 - ・ スタンバイ中にバッテリーパックをはずすことまた、スタンバイ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押しして一旦電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailureで立ち上がります）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

2) 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

【方法1ー [スタート] メニューから実行する】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [東芝省電力] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 (Shift) キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift) キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

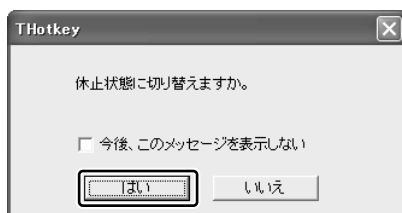
【方法2ー (Fn) + (F4) キーを使う】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [東芝省電力] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 (Fn) + (F4) キーを押す

3 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック () して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

Power  LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

3 簡単に電源を切る / パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る (電源オフ)、またはスタンバイ / 休止状態にすることができます。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [何もしない] [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順 1 の④で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディ스플레이を閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] [何もしない] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 ディ스플레이を閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。

6章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを使う前に 168
 - 2 アプリケーションを追加（インストール）する 170
 - 3 アプリケーションを削除（アンインストール）する 171

1 アプリケーションを使う前に

本製品にはさまざまなアプリケーションが用意されています。

複数のユーザで使用できる Windows XP では、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

▶ 複数のユーザで使用する場合について
『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

| アプリケーション | 使用できるユーザ | | 複数のユーザで同時に使用できる | 制限付きアカウントでのアイコン表示 |
|---------------------------------------|----------|--------------|-----------------|-------------------|
| | すべてのユーザ | コンピュータの管理者のみ | | |
| 簡単インターネット | ○*1 | | ○ | ○ |
| The 翻訳インターネット | ○ | | ○ | ○ |
| 内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ | | ○ | | ○*2 |
| 東芝コントロール | ○ | ○ | ○ | |
| 東芝コンソール | ○ | | ○ | |
| Drag'n Drop CD + DVD | ○ | | ○*3 | ○ |
| 携快電話 7 | ○ | | | ○ |
| ekitanExpress Online | | ○ | | ○*2 |
| Liquid View | ○ | | ○ | ○ |
| 家庭の医学 | ○ | | ○ | ○ |
| LaLaVoice | ○*4 | | ○ | ○ |
| デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express) | ○ | | | |
| MotionDV STUDIO | | ○ | | ○*2 |
| InterVideo WinDVD | ○ | | | ○ |
| プロアトラス W for TOSHIBA | | ○ | ○ | ○*2 |
| 駅すばあと | ○ | | ○ | |
| 筆ぐるめ | ○ | | ○*2 | |
| Norton Internet Security | ○ | | ○ | ○ |
| 東芝 PC 診断ツール | | ○ | | ○*2 |
| 東芝 HW セットアップ | ○ | | | - *5 |
| 東芝省電力ユーティリティ | | ○ | ○ | - *5 |

| アプリケーション | 使用できるユーザ | | 複数のユーザで同時に使用できる | 制限付きアカウントでのアイコン表示 |
|-----------------------------|----------|--------------|-----------------|-------------------|
| | すべてのユーザ | コンピュータの管理者のみ | | |
| 東芝 SD メモリカードフォーマット | | ○ | | ○*6 |
| 東芝パスワードユーティリティ | ○*7 | | | ○ |
| Fe-esse | ○ | | ○ | ○ |
| Bluetooth 東芝ユーティリティ | | ○ | | ○*2 |
| いきなりインターネット (infoPepper) | | ○ | | ○*2 |
| AOL | ○ | | | ○ |
| DION かんたん設定ツール | | ○ | ○ | ○*2 |
| OCN サインアップ | | ○ | | |
| @nifty でインターネット | | ○ | | ○*2 |
| ODN ダイアルアップ スターターキット | ○ | | ○*8 | ○ |
| DreamNet | | ○ | ○ | |
| BIGLOBE サインアップナビ | ○ | | | ○ |
| TTNet | ○ | | ○ | ○ |
| かるがるネット | | ○ | | |

- * 1 制限付きアカウントはダイヤル方式の設定はできません。
- * 2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。
- * 3 CD-R などへの書き込みは、複数のユーザが同時に行うことはできません。
- * 4 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。
- * 5 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。
- * 6 同時に起動することはできますが、同時にフォーマットすることはできません。
- * 7 制限付きアカウントで Windows にログオンしている場合は、トークンの作成などの一部の機能は使用できません。
- * 8 [ユーザアカウント] のオプションにて [ユーザの簡易切り替えを使用する] を設定している場合のみ、可能です。

2 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。



お願い

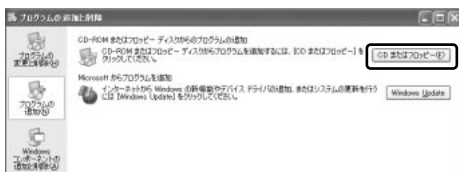
- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

〔プログラムの追加と削除〕からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で〔プログラムの追加と削除〕を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットする
- 2 [コントロールパネル]を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CDまたはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

3 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。
本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCD-ROMから、再インストールして使用することができます。


参照 → 再インストールについて『困ったときは 4章 再セットアップ』

アプリケーションを削除する方法を説明します。
アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

7 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 174
 - 2 東芝HW セットアップを使う 175
 - 3 パスワードセキュリティ 181
 - 4 BIOS セットアップを使う 190


1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」、「東芝パスワードユーティリティ」などがあります。

 **参照** 東芝省電力ユーティリティについて「5章 2 省電力の設定をする」

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。



2 東芝 HW セットアップを使う

東芝 HW セットアップを使い、Windows 上でハードウェアの設定を変更できます。デバイス、パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 東芝 HW セットアップの起動と使用

東芝 HW セットアップの操作について、説明します。

1 起動方法

- 1 【コントロールパネル】を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝 HW セットアップ] をクリックする

2 使用方法

■ 【全般】 タブ ■

BIOS セットアップのバージョンと日付などを表示します。



【標準設定】

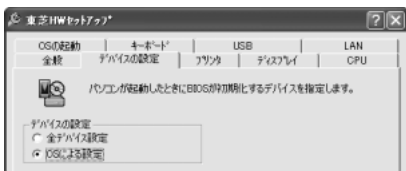
このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のタブの項目が購入時の設定状態に戻ります。

【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のバージョン情報を表示します。

■ 【デバイスの設定】 タブ ■

パソコンが起動したときに BIOS セットアップが初期化する装置を指定します。

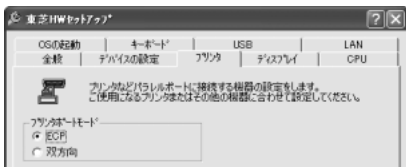


【 デバイスの設定 】

- 全デバイス設定
すべての装置を初期化します。
- OS による設定（標準値）
システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。通常はこちらに設定します。

■ 【プリンタ】 タブ ■

プリンタなど、パラレルポートに接続する機器の設定をします。使用するプリンタ、またはその他の機器にあわせて設定してください。



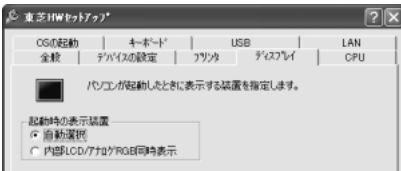
【 プリンタポートモード 】

- ECP
ECP 対応に設定します。大半のプリンタでは ECP に設定します。
- 双方向
双方向に設定します。一部のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース機器を使用するのに設定します。

参照 ➡ プリンタの設定「4章 6 プリンタを接続する」

■ [ディスプレイ] タブ ■

表示する装置を選択します。



【 起動時の表示装置 】

● 自動選択

システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、内部液晶ディスプレイに表示します。

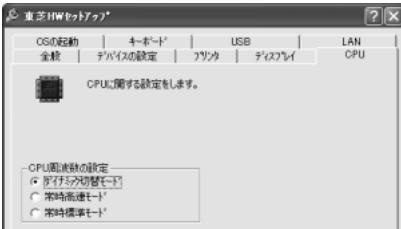
● 内部 LCD/ アナログ RGB を同時表示

外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイの両方に表示します。

参照 → CRT ディスプレイの接続「4章 8 CRT ディスプレイを接続する」

■ [CPU] タブ ■

CPU について設定します。



【 CPU 周波数の設定 】

● ダイナミック切替モード（標準値）

CPU の消費電力・周波数切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。

● 常時高速モード

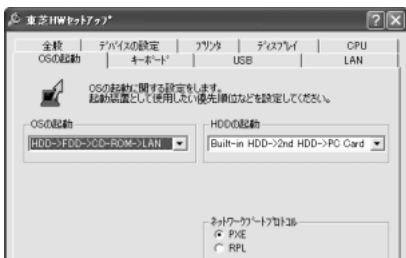
CPU の消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。

● 常時標準モード

CPU の消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、標準周波数で動作します。

■ [OSの起動] タブ ■

パソコンの起動について設定します。



【OSの起動】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

【HDDの起動】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

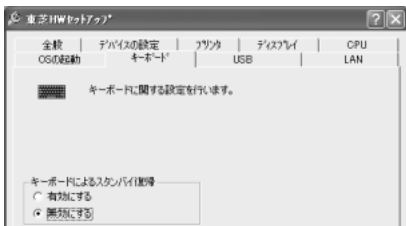
通常は [Built in HDD → 2nd HDD → PC Card] に設定してください。

【ネットワークブートプロトコル】

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE（標準値）
PXE プロトコルに設定します。
- RPL
RPL プロトコルに設定します。

■ [キーボード] タブ ■

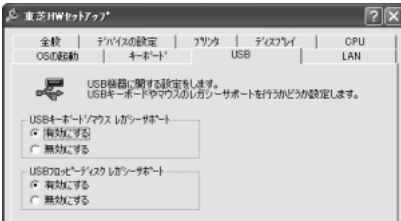


【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

■ [USB] タブ ■

USB 対応機器について設定します。



【 USB キーボード／マウス レガシーサポート 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）

レガシーサポートを行います。ドライバなしでUSB キーボード、USB マウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。

- 無効にする

レガシーサポートを行いません。

【 USB フロッピーディスク レガシーサポート 】

USB フロッピーディスクのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）

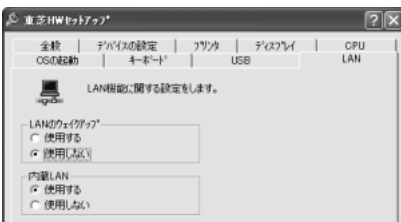
レガシーサポートを行います。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。

- 無効にする

レガシーサポートを行いません。

■ [LAN] タブ ■

LAN 機能について設定します。



【 LAN のウェイクアップ 】



LAN のウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LAN のウェイクアップ機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

【 内蔵 LAN 】

内蔵 LAN を使用するかどうかを設定します。

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝 HW セットアップ] を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の3種類があります。

- Windows のログオンパスワード

Windows にログオンするとき

インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

参照 → インスタントセキュリティ機能
「1章 3-③- (Fn)キーを使った特殊機能キー」

- ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード

電源を入れたときや東芝パスワードユーティリティを使用するとき

- HDD パスワード

ハードディスクを起動するとき

参照 → HDD パスワードについて
「本節 ④ HDD パスワードについて」、「本章 4-③-5 HDD PASSWORD」

ここでは、「東芝パスワードユーティリティ」を使ってユーザパスワードとスーパーバイザパスワードの設定する方法、トークン*1 を作成する方法についてと、HDD パスワードについて説明します。

*1 パスワードの代わりに使用できるSDメモ리카ードです。

ユーザパスワードやスーパーバイザパスワードを登録すると、電源を入れたときや東芝パスワードユーティリティを使用するときにパスワードの入力が必要になります。通常はユーザパスワードを登録してください。

参照 → ユーザパスワード「本節 ① ユーザパスワード」

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOS セットアップの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

参照 → スーパーバイザパスワード「本節 ② スーパーバイザパスワード」

メモ

パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

1 ユーザパスワード

パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [東芝パスワードユーティリティ] をクリックする



[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。

2 ユーザパスワードの登録

- 1 東芝パスワードユーティリティを起動する

- 2 [登録] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの登録] 画面が表示されます。

- 3 [入力] にパスワードを入力する

パスワードは 50 文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

| | | |
|----------|---|--|
| 使用できる文字 | アルファベット (半角) | A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z |
| | 数字 (半角) | 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 |
| | 記号の一部 (半角) | - ! @ < > ; : , . (スペース) |
| 使用できない文字 | <ul style="list-style-type: none"> ・全角文字 (2バイト文字) ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ (全角/半角)、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・記号の一部 (半角) 【例】 (バーチカルライン)、_ (アンダーバー)、¥ (エン) など | |

入力した文字に使用できない文字が含まれていた場合は警告メッセージが表示されます。

メッセージの内容に従って、再度パスワードを入力してください。

4 [確認入力] に手順3で入力したパスワードを再度入力する

5 [登録] ボタンをクリックする

パスワードが登録されます。

入力エラーのメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じ、手順4から操作をやり直してください。

パスワードの文字列をテキストファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

このファイルをパスワードファイルと呼びます。パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

6 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

[OK] ボタンをクリックすると、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。

7 パスワードファイルを作成する

パスワードのテキストファイルの保存先は、フロッピーディスクなどのリムーバルメディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。


- ① メディアをセットする
- ② [保存する場所] で保存先を選択する
- ③ [ファイル名] にファイル名を入力する
- ④ [保存] ボタンをクリックする

お願い

パスワードファイルを保存したリムーバルメディアは、安全な場所に保管してください。

【トークンの作成】


トークンとは、パスワードの代わりに使用することができる SD メモリカードです。トークンを作成するには、フォーマット済みの SD メモリカードが必要です。あらかじめ用意しておいてください。また、一部のフォーマット形式には対応しておりません。対応していない SD メモリカードをセットした場合は、警告メッセージが表示されます。その場合は、別の SD メモリカードを使用するか、「東芝 SD メモリカードフォーマット」でフォーマットしてください。ただしフォーマットすると、その SD メモリカードに保存されていた内容はすべて消去されます。SD メモリカードの内容をよく確認してから使用してください。

 参照 SD メモリカードのフォーマット

「1 章 9-③-2 SD メモリカードのフォーマット」

トークンの作成は、パスワードを登録済みの場合のみ行えます。あらかじめパスワードを登録しておいてください。

1 SD メモリカードをセットする

 参照 SD メモリカードのセットについて

「1 章 9-② SD メモリカードのセットと取り出し」

2 【作成】 ボタンをクリックする

【ユーザトークンの作成】 画面が表示されます。

3 【SD カードのドライブ】 で SD メモリカードをセットしたドライブを選択する

4 【作成】 ボタンをクリックする

- 5 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする
トークンが作成されます。
- 6 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

3 ユーザパスワードの削除

- 1 東芝パスワードユーティリティを起動する
[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
トークンを使用する場合は、ここでトークンをセットしてください。
- 2 [削除] ボタンをクリックする
[ユーザパスワードの削除] 画面が表示されます。
- 3 [パスワード] に、登録してあるパスワードを入力する
トークンを使用する場合は、[トークンで認証] を選択し、[SD カードのドライブ] でトークンをセットしたドライブを選択してください。
- 4 [削除] ボタンをクリックする
- 5 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- 6 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

4 ユーザパスワードの変更

- 1 東芝パスワードユーティリティを起動する
[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
トークンを使用する場合は、ここでトークンをセットしてください。
- 2 [変更] ボタンをクリックする
[ユーザパスワードの変更] 画面が表示されます。
- 3 [現在のパスワード] に、登録してあるパスワードを入力する
トークンを使用する場合は、[トークンで認証] を選択し、[SD カードのドライブ] でトークンをセットしたドライブを選択してください。
- 4 [入力] に新しいパスワードを入力する
- 5 [確認入力] に手順4で入力したパスワードを再度入力する
- 6 [変更] ボタンをクリックする

- 7 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする
エラーメッセージが表示された場合は内容を確認し、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。
エラーメッセージの内容が認証エラーの場合は手順3、確認入力エラーの場合は手順5から操作をやり直してください。
- 8 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする
パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。
パスワードファイルの作成方法は、「本節 ①-2 ユーザパスワードの登録」の手順7を確認してください。

2) スーパーバイザパスワード

「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。なお、BIOS セットアップでは設定できません。

メモ

パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 [C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥TOSPU.EXE] と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする
[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
- 4 [スーパーバイザパスワード] タブをクリックする

操作方法

スーパーバイザパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザパスワードの設定方法と同様です。
ユーザパスワードの設定を確認してください。



参照 ユーザパスワード「本節 ① ユーザパスワード」

3 ユーザパスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、Enter キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミス を 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

ユーザ/スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合

ユーザ/スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で確認または解除してください。

● パスワードファイルを確認する

電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器で確認してください。

● トークンを使用して登録したパスワードを解除する

上記の方法でパスワードの確認または解除できなかった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。

パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できるもの）の提示が必要となります。

【トークンの使用方法】

● 電源を入れるとき

1 「Password=」と表示されたら、トークン（SD メモリカード）をセットする

メモ

あらかじめトークンをセットしておいてから電源を入れると、自動的にパスワードが解除されます。

- 「東芝パスワードユーティリティ」を使用しているとき

1 認証を求める画面が表示されたら、トークン（SDメモ리카ード）をセットする

〔トークンで認証〕が選択できない場合は、認証を求める画面を閉じ、再度表示させてください。

2 画面に表示された説明にしたがって操作を行う

パスワードが解除され、次の操作に進みます。

4 HDDパスワードについて

HDDパスワードは、パソコン本体のハードディスクを保護するセキュリティ機能です。HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOS セットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くお勧めします。

お願い

万一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードの解除をできません。この場合、ハードディスク装置は永久に使用できなくなり、ハードディスク装置の交換対応となります。

ハードディスク装置が使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社は一切責任を負いません。

HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 パスワードの種類

HDDパスワードは、ユーザHDDパスワードとマスタHDDパスワードの2つを設定することが可能です。

【ユーザHDDパスワード】

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。

なお、登録後にマスタHDDパスワードを削除すると、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。

【マスタHDDパスワード】

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。

マスタHDDパスワードはユーザHDDパスワードの代わりになります。マスタHDDパスワードを登録しておくことで、ユーザHDDパスワードを忘れた場合でも、マスタHDDパスワードを入力することにより、ハードディスク装置にアクセスすることができます。マスタHDDパスワードを使用してユーザHDDパスワードを削除することなどもできます。

なお、マスタHDDパスワードのみを変更することはできません。

組織などでマスタHDDパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザに対してパソコン本体を配布する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでマスタHDDパスワードと仮のユーザHDDパスワードを設定しておく必要があります。

3 HDDパスワードの設定方法

HDDパスワードの設定方法は、「本章 4-③-5 HDD PASSWORD」を確認してください。

4 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOSセットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows 上の「東芝HW セットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行ってください。BIOS セットアップとWindows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリーが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

1 BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップの起動と終了、基本操作について説明します。

1 起動

1 (Esc) キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、次のように操作してください。

- 「Password = 」と表示されたとき
 - ・ユーザパスワードを登録してある場合
 - ① ユーザパスワードを入力し、(Enter) キーを押す
 - ・ユーザパスワードとHDDパスワードの両方を登録してある場合
 - ① ユーザパスワードを入力し、(Enter) キーを押す
「HDD Password = 」と表示されます。
ユーザパスワードとHDDパスワードに同じパスワードを登録してある場合は、手順②に進む必要はありません。
 - ② HDDパスワードを入力し、(Enter) キーを押す
- 「HDD Password = 」と表示されたとき
 - ① HDDパスワードを入力し、(Enter) キーを押す

参照 → ユーザパスワード、HDD パスワードについて
「本章 3 パスワードセキュリティ」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 (F1) キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 (Fn) + (→) キーを押す

本製品では、(Fn) + (→) が (End) キーの機能を持ちます。
画面にメッセージが表示されます。

2 (Y) キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。なお、ユーザパスワード、HDD パスワードに対して行われた変更は無効になりません。

1 (Esc) キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y) キーを押す

BIOS セットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

| | |
|--------------|---|
| 変更したい項目を選択する | <p>↑、↓、←、→</p> <p>画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。</p> |
| 項目の内容を変更する | <p>(Space)または(BackSpace)</p> |
| 画面を切り替える | <p>(Fn) + ↓または(Fn) + ↑</p> <p>本製品では、(Fn) + ↓が(PgDn)キー、(Fn) + ↑が(PgUp)キーの機能を持ちます。</p> <p>次の画面または前の画面に切り替わります。</p> |
| 設定内容を標準値にする | <p>(Fn) + ←</p> <p>本製品では、(Fn) + ←が(Home)キーの機能を持ちます。</p> <p>次の項目は、この操作をしても変更されません。</p> <ul style="list-style-type: none">●PASSWORD●Hard Disk Mode●Write Policy |

2) BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには次の2つの画面があります。

SYSTEM SETUP (1/2) ACPI BIOS version = X. XX

| | | | |
|---|--|--|---|
| ① | MEMORY Total = XXXXXKB | BOOT PRIORITY Boot Priority = HDD → FDD → CD-ROM → LAN HDD Priority = Built-in HDD → Second HDD → PC Card | ⑥ |
| ② | SYSTEM DATE/TIME Date (MM-DD-YYYY) = XX-XX-XXXX Time (HH:MM:SS) = XX:XX:XX | DISPLAY Power On Display = Auto-Selected LCD Display Stretch = Enabled TV Type = NTSC(JAPAN) | ⑦ |
| ③ | BATTERY Battery Save Mode = Full Power | OTHERS Power-up Mode = Boot CPU Cache = Enabled Level 2 Cache = Enabled Dynamic CPU Frequency Mode = Dynamically Switchable Auto Power On = Disabled Panel Power On/Off *1 = Disabled | ⑧ |
| ④ | PASSWORD Not Registered | | |
| ⑤ | HDD PASSWORD HDD = Built-in HDD HDD Password Mode = User Only User Password = Not Registered | | |

↑↓+→: Select items **Space,BkSp**: Change values **PgDn,PgUp**: Change pages
Esc: Exit without saving **Home**: Set default values **End**: Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

* 1 Panel Power On/Offは、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。

SYSTEM SETUP (2/2) ACPI BIOS version = X. XX

| | | | |
|---|---|--|---|
| ⑨ | CONFIGURATION Device Config. = Setup by OS | PC CARD Controller Mode = Auto-Selected | ⑬ |
| ⑩ | I/O PORTS Parallel = LPT1(378H/IRQ7/CH3) | PERIPHERAL Internal Pointing Device = Enabled Parallel Port Mode = ECP Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal) | ⑭ |
| ⑪ | DRIVES I/O Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14) Select Bay = Secondary IDE(170H/IRQ15) | LEGACY EMULATION USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled USB-FDD Legacy Emulation = Enabled | ⑮ |
| ⑫ | PCI BUS PCI BUS = IRQ10, IRQ11 | PCI LAN Built-in LAN = Enabled | ⑯ |

↑↓+→: Select items **Space,BkSp**: Change values **PgDn,PgUp**: Change pages
Esc: Exit without saving **Home**: Set default values **End**: Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

参照 → 設定項目の詳細について「本節 ③ 設定項目」

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY—メモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME—日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は(Spece)または(BackSpece)キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは、(↑) (↓)キーで行います。

【 System Date 】

日付を設定します。

【 System Time 】

時刻を設定します。

3 BATTERY—バッテリーで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)

Processing Speed = High
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.
HDD Auto Off = 30Min.
System Auto Off = Disabled
LCD Brightness = Super-Bright
Cooling Method = Maximum Performance

●User Setting (設定例)

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Battery Optimized

●Low Power

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Bright
Cooling Method = Battery Optimized

(注) System Auto Off (システム自動停止時間) は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。
また LCD Brightness は、AC アダプタを接続している場合の表示内容です。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

- **Processing Speed**

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

- **CPU Sleep Mode**

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

- **Display Auto Off (表示自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

- **HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)**

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

- **System Auto Off (システム自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。

- LCD Brightness (LCD 輝度)

画面の明るさを選択します。

- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する
- ・ Bright 高輝度に設定する
- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する

- Cooling Method (CPU 熱制御方式)

CPU の熱を冷ます方式を選択します。

CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ Maximum Performance ... CPU 温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させて CPU に風を送り、冷やします。
- ・ Battery Optimized CPU が高温になったときに、CPU の処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

4 PASSWORD—ユーザパスワードの登録／削除／変更をする

パスワードの入力エラーが 3 回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。

【 Not Registered 】

パスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】

パスワードが設定されているときに表示されます。

パスワードの設定は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 → 東芝パスワードユーティリティでのパスワード設定
「本章 3 パスワードセキュリティ」

■ ユーザパスワードの登録 ■

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。

4 (Enter)キーを押す

1回目のパスワードが確認され、「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。

6 (Enter)キーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

7 パスワードの設定が終了したら、(Fn) + (→)キーを押す

本製品では、(Fn) + (→)が(End)キーの機能を持ちます。
次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.

8 (Y)キーを押す

■ ユーザパスワードの削除 ■

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、

(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 (Enter)キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 (Enter)キーを押す

ここでは何も入力しません。

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 (Enter)キーを押す

ここでは何も入力しません。

パスワードが削除されます

手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。

■ ユーザパスワードの変更 ■

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「Password」の「Registered」に合わせ、

(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 (Enter)キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

手順3で入力したパスワードが正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

5 新しいパスワードを入力し、(Enter)キーを押す

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 手順5で入力したパスワードを再度入力し、(Enter)キーを押す

パスワードが変更されます。

手順5と手順6で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順5からやり直してください。

■ ユーザパスワードの入力 ■

ユーザパスワードが設定されている場合、パソコン本体の電源を入れると「Password=」と表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、Enter キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入カミス を 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
電源を入れ直してください。



参照 ユーザパスワードを忘れた場合

「本章 3-③-ユーザ/スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合」

5 HDD PASSWORD—HDDパスワードの登録/削除/変更をする

HDDパスワードを設定する前に、必ず「本章 3-④ HDDパスワードについて」で注意事項を確認してください。

【 HDD 】

パスワードを設定するハードディスクを選択します。

- ・ Built-in HDD 内蔵ハードディスクに設定する
- ・ Second HDD セカンドハードディスクに設定する

【 HDD Password Mode 】

登録するパスワードを選択します。

HDDパスワードを登録するときのみ、選択できます。HDDパスワードが登録されている状態で「HDD Password Mode」を変更する場合は、いったんHDDパスワードを削除してから登録し直してください。

- ・ User Only ユーザHDDパスワードのみ設定する
- ・ Master+User マスタHDDパスワードとユーザHDDパスワードを設定する

【 User Password 】

ユーザHDDパスワードを設定します。

■ HDD パスワードの登録 ■

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「User Password」の「Not Registered」に合わせ、(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。

 参照 東芝パスワードユーティリティでのパスワード登録

「本章 3-①-2 ユーザパスワードの登録」

パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 (Enter)キーを押す

1回目のパスワードが確認され、「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。

6 (Enter)キーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

7 パスワードの設定が終了したら、(Fn) + (→)キーを押す

本製品では、(Fn) + (→)が(End)キーの機能を持ちます。

次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)

The changes you made will cause the system to reboot.

8 (Y)キーを押す

BIOS セットアップの画面に戻るには(N)キーを押します。

■ HDD パスワードの削除 ■

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、
(Space)または(BackSpace)キーを押す
パスワードが入力できる状態になります。
- 3 登録してあるパスワードを入力する
入力すると1文字ごとに*が表示されます。
- 4 (Enter)キーを押す
「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。
- 5 (Enter)キーを押す
ここでは何も入力しません。
「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示
されます。
- 6 (Enter)キーを押す
ここでは何も入力しません。
パスワードが削除されます
手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビー
プ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してくだ
さい。

「HDD Password Mode」で「Master+User」を選択した場合は、マスタHDD
パスワードの削除を行うことでHDDパスワードを削除します。このとき同時に
ユーザHDDパスワードも削除されます。なお、ユーザHDDパスワードのみを削除
することはできません。

■ HDD パスワードの変更 ■

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、
(Space)または(BackSpace)キーを押す
パスワードが入力できる状態になります。
- 3 登録してあるパスワードを入力する
入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 (Enter)キーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。手順3で入力したパスワードが正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

5 新しいパスワードを入力し、(Enter)キーを押す

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 手順5で入力したパスワードを再度入力し、(Enter)キーを押す

パスワードが変更されます。

手順5と手順6で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順5からやり直してください。



「HDD Password Mode」で「Master+User」を選択している場合は、手順3でマスタHDDパスワードを入力してください。またユーザHDDパスワードの代わりに、マスタHDDパスワードを入力することもできます。この場合、マスタHDDパスワードを使ってユーザHDDパスワードを変更することができます。

■ HDDパスワードの入力 ■

HDDパスワードが設定されている場合、パソコン本体の電源を入れると「HDD Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、Enter キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミスを超え3回繰り返した場合は、ハードディスクドライブ以外のドライブが起動します。ハードディスクドライブ以外のドライブにシステムが入っているメディアがセットされていない場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

【 Master Password 】

マスタHDDパスワードを設定します。

「HDD Password Mode」で「Master+User」を選択した場合のみ表示されます。この場合、マスタHDDパスワードからHDDパスワードを設定し、続けてユーザHDDパスワードの設定を行います。マスタHDDパスワードのみを登録することはできません。

設定方法は、ユーザHDDパスワードと同様です。

6 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ順に起動する

電源を入れたときや再起動時に、次のキーを押し続けると、一時的に設定内容と違うドライブから起動できます。

これらのキーによって設定は変更されません。

| | |
|-----|--|
| Ⓒキー | マルチドライブから起動 |
| Ⓐキー | 内蔵 LAN から起動 |
| Ⓚキー | USB フロッピーディスクドライブから起動 |
| ①キー | パソコン本体のハードディスクドライブから起動 |
| ②キー | セカンドハードディスクドライブから起動 |
| Ⓟキー | PC カードタイプ (TYPE II または TYPE III) のハードディスク (別売り) から起動 |

【 HDD Priority 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

通常は「Built-in HDD → Second HDD → PC Card」に設定してください。

- ・ Built-in HDD → Second HDD → PC Card (標準値)
 - ・ Second HDD → Built-in HDD → PC Card
 - ・ Built-in HDD → PC Card → Second HDD
 - ・ Second HDD → PC Card → Built-in HDD
 - ・ PC Card → Built-in HDD → Second HDD
 - ・ PC Card → Second HDD → Built-in HDD
- 指定のドライブ順に起動する

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・ PXE (標準値) PXE プロトコルに設定する
- ・ RPL RPL プロトコルに設定する

7 DISPLAY—表示装置の設定をする

SVGA モードに対応していない外部 CRT ディスプレイを接続して、「LCD + AnalogRGB」を選択した場合、外部 CRT ディスプレイには画面が表示されません。

【 Power On Display 】

表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) .. システム起動時に外部 CRT ディスプレイを接続しているときは外部 CRT ディスプレイだけに、接続していないときは内部液晶ディスプレイだけに表示する
- ・ LCD + AnalogRGB 外部 CRT ディスプレイと本体のディスプレイに同時表示する

【 LCD Display Stretch 】

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

- ・ Enabled (標準値) ... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- ・ Disabled 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- ・ NTSC (JAPAN) (標準値) .. 日本仕様の TV 受信機
- ・ NTSC (US) 米国仕様の TV 受信機
- ・ PAL ヨーロッパ仕様の TV 受信機

8 OTHERS—その他の設定をする

【 Power-up Mode (レジューム機能) 】

レジューム機能を設定します。

- ・ Boot (標準値) レジューム機能を無効にする
- ・ Resume レジューム機能を有効にする

【 CPU Cache (キャッシュ) 】

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Enabled (標準値) ... キャッシュメモリを使用する
- ・ Disabled キャッシュメモリを使用しない

「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- ・ Write-back (標準値) ... 書き込み方式を「Write-back」に設定する
キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
- ・ Write-through 書き込み方式を「Write-through」に設定する
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- ・ Enabled (標準値) ... 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled 2次キャッシュを使用しない

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

- ・ Dynamically Switchable (標準値) ... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
- ・ Always High CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- ・ Always Low CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低周波数で動作します。

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。

起動後は設定が解除されます。

Windows XPを使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。

Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

- ・ Disabled (標準値) ... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能とも設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、インスタントセキュリティ状態で起動しパスワードの入力が要求されます。パスワードを入力すると、休止状態から Windows に復帰します。

インスタントセキュリティとは、画面の表示をオフにし、キー入力 (タッチパッド、マウスを含む) もできない状態のことです。

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は (Space) または (BackSpace) キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは (↑) (↓) キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled 月日を設定しない

● Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

また、この機能は PC カードタイプのモデムで使用できません。

- ・ Disabled (標準値) ... リングインジケータ機能を使用しない
- ・ Enabled リングインジケータ機能を使用する

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- ・ Enabled Wake up on LAN 機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ... Wake up on LAN 機能を使用しない

【 Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能) 】

ディスプレイの開閉による電源の入/切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。

- ・ Enabled パネルスイッチ機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ... パネルスイッチ機能を使用しない

9 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS (標準値) ... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
この場合、「PC カード」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- ・ All Devices すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」(標準値) を選択することを推奨します。ただし「PC CARD」内の Controller Mode の設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。



「PC CARD」について

「本項 13 PC CARD - PC カードのモードを選択する」

10 I/O PORTS (I/Oポート)

【 Parallel 】

パラレルポートの割り当てを設定します。

「Not Used」以外を選択すると、「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● DMA

DMA チャンネルを設定します。

「Parallel Port Mode」が「ECP」の場合に設定できます。

11 DRIVES I/O—HDD、スリムセレクトベイ、PCカードの設定

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 Select Bay 】

スリムセレクトベイに取り付けられている機器のアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 PC Card 】

PC カードタイプ (TYPE II または III) のハードディスク (別売り) からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。

システムを起動できる PC カードのタイプ (TYPE II または III) のハードディスク (別売り) を PC カードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。

12 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

13 PC CARD—PCカードのモードを選択する

【 Controller Mode 】

PC カードのモードを選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) ... プラグアンドプレイに対応した OS を使用している場合、選択します。
- ・ Card Bus/16-bit Auto-Selected で正常に動作しない CardBus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。
- ・ PCIC Compatible Auto-Selected や CardBus/16-bit で正常に動作しない 16-bit PC カードを使用する場合に選択します。

14 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドの使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 使用する
- ・ Disabled 使用しない

【 Parallel Port Mode 】

パラレルポートモードの設定をします。

Windows で使用する場合は、標準値のまま使用できます。

- ・ ECP (標準値) ECP 対応に設定する
大半のプリンタでは、ECP に設定します。
- ・ Std.Bi-Direct. 双方向に設定する
一部のプリンタおよび、プリンタ以外のパラレル装置を使用する場合に設定します。

メモ

Windows を使用している場合は「東芝 HW セットアップ」の設定が有効になり、「Parallel Port Mode」の設定は無効になります。

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値) 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

15 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード／USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Lagacy Emulation 】

- ・ Enabled (標準値)... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用
できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こち
らに設定します。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

[USB-FDD Lagacy Emulation] が [Enabled] に設定されていても、⑥「BOOT PRIORITY」の [Boot Priority] が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

16 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値)... 有効にする
- ・ Disabled 無効にする

付録

本製品について、外形や各インタフェースなどのハードウェア仕様や、技術基準適合について記しています。

-
- 1 本製品の仕様 212
 - 2 各インタフェースの仕様 221
 - 3 技術基準適合について 226
 - 4 無線LANについて 240
 - 5 Bluetoothについて 247

1 本製品の仕様

1 製品仕様

| | | |
|---------|-------------------|---|
| 機種 | | DynaBook V7シリーズ |
| プロセッサ | CPU | 東芝PC診断ツールを参照 |
| メモリ | ROM | 512KB（フラッシュROM）、ACPI 1.0b、APM1.2、Plug and Play 1.0a |
| | RAM | 東芝PC診断ツールを参照 |
| | ビデオRAM | 32MB |
| 表示機能 | 表示装置 | 15.0型TFT方式カラー液晶ディスプレイ |
| | グラフィック表示 | 横1024 x 縦768 1画面 |
| 入力装置 | キーボード | OADG109Aキータ입準拠 87キー（文字キー、制御キーの合計） |
| | ポインティングデバイス | タッチパッド内蔵（シーソースイッチ付き） |
| 補助記憶装置 | SDメモ리카ードスロット | 1個装備 |
| | 2.5型ハードディスクドライブ | 1台内蔵 |
| | マルチドライブ | スリムセレクトベイに取り付けて使用 CD：最大24倍速 CD-R：最大24倍速 CD-RW（マルチスピード）：最大4倍速 High-Speed対応CD-RW：最大10倍速 DVD-ROM：最大8倍速 8cm、12cmのCD対応 マルチセッション |
| | 3.5型フロッピーディスクドライブ | 外付けUSB接続 2DDまたは2HDフロッピーディスクを使用 1.44MB、1.2MB（2HD）／720KB（2DD） |
| インタフェース | RGB | 1個装備 |
| | プリンタ | 1個装備（ECP） |
| | USB | 4個装備 USB2.0準拠 *1 |
| | i.LINK（IEEE 1394） | 1個装備（S400・4ピン） |
| | PCカード | 2個装備 PC Card Standard準拠 （TYPE II x 2、またはTYPE III x 1） CardBus対応 |
| | サウンド | マイク入力（モノラル） ミニジャック 1個装備（φ3.5mmミニジャック） ヘッドホン出力（ステレオ） ミニジャック 1個装備（φ3.5mmミニジャック） 内蔵スピーカ（ステレオ）装備 内蔵マイク装備 |
| | ビデオ | ビデオ出力 1個装備（φ3.5mmミニジャック） |

| | | |
|--------------|-----------|--|
| 通信機能 | LAN | 1個装備 100BASE-TX/10BASE-T |
| | モデム | 1個装備 データ：最大56kbps (V.90対応、ボイスレス、世界58地域対応) FAX：最大14.4kbps |
| | 無線LAN | 1個装備 IEEE802.11b準拠 (11Mbpsまで対応) |
| | Bluetooth | 1個装備 Bluetooth Specification Ver.1.1準拠 |
| | 赤外線 | 1ポート装備 IrDA1.1準拠 |
| カレンダー機能 | | 日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ |
| 電源 | ACアダプタ | AC100V～240V (50Hz、または60Hz) ACアダプタ |
| | バッテリー | バッテリーパック Li-Ion 10.8V/6600mAh |
| 最大消費電力 | | 60W |
| 使用環境条件 | | 温度：5℃～35℃ 湿度：20%～80%Rh |
| 外形寸法 (突起部除く) | | 334 (幅) x 293 (奥行) x 35.8/41.4 (高さ) mm |
| 質量 | | 約3.3kg |

* 1 従来のUSB1.1規格と安全な互換性を持つとともに、USB1.1と比べて40倍(理論値)の高速データ転送の可能なHighSpeedモードをサポートします。
ただし、すべてのUSB1.1/2.0対応機器の動作を保証するものではありません。

【東芝PC診断ツール】

基本仕様の一部は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC診断ツール] をクリックする
- 2 [基本情報の表示] ボタンをクリックする

メモ

「東芝PC診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。購入後に設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。ただし [CPU] の項目には、搭載されているCPUの最大クロック数(固定値)が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。
その他の地域で使用する場合は、当該国・地域法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は100Vです。必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

※取得規格は、電気用品安全法です。

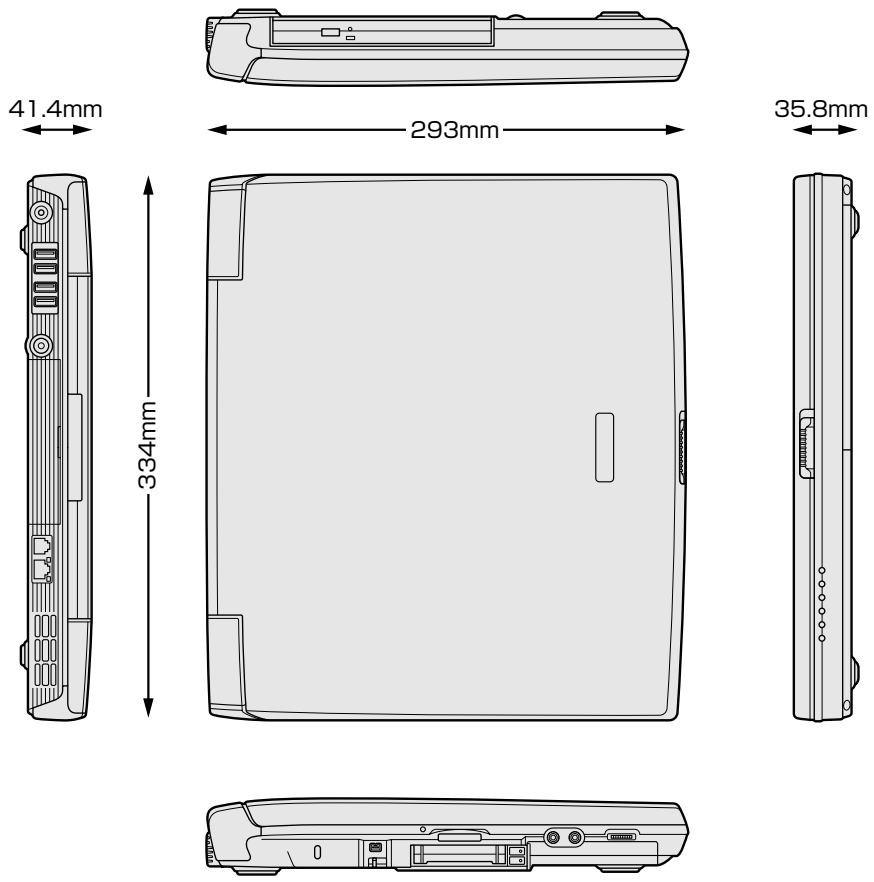
【ACアダプタの仕様】

入力：AC100V～240V、90～264VA、50/60Hz

出力：DC15V 4A

2 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。



付録

3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照▶ 表示可能色数の詳細について「1章 5-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

| ビデオモード | 形式 | 解像度 | フォントサイズ | 色数 | CRTリフレッシュレート(Hz) |
|--------|----------------|------------|---------|----------|------------------|
| 0,1 | VGA テキスト | 40×25字 | 8×8 | 16/256K | 70 |
| 2,3 | | 80×25字 | 8×8 | 16/256K | |
| 0*,1* | | 40×25字 | 8×14 | 16/256K | |
| 2*,3* | | 80×25字 | 8×14 | 16/256K | |
| 0+,1+ | | 40×25字 | 8(9)×16 | 16/256K | |
| 2+,3+ | | 80×25字 | 8(9)×16 | 16/256K | |
| 4,5 | VGA | 320×200ドット | 8×8 | 4/256K | 70 |
| 6 | グラフィックス | 640×200ドット | 8×8 | 2/256K | |
| 7 | VGA テキスト | 80×25字 | 8(9)×14 | モノクロ | 70 |
| 7+ | | 80×25字 | 8(9)×16 | モノクロ | |
| D | VGA グラフィックス | 320×200ドット | 8×8 | 16/256K | 70 |
| E | | 640×200ドット | 8×8 | 16/256K | |
| F | | 640×350ドット | 8×14 | モノクロ | |
| 10 | | 640×350ドット | 8×14 | 16/256K | |
| 11 | | 640×480ドット | 8×16 | 2/256K | |
| 12 | | 640×480ドット | 8×16 | 16/256K | |
| 13 | | 320×200ドット | 8×8 | 256/256K | |

| ビデオモード | 形式 | 解像度 | フォントサイズ | 色数 | CRT リフレッシュレート |
|--------|-----------------|----------------|---------|----------|------------------|
| — | SVGA グラフィックス | 800 x 600 | — | 256/256K | 60/75/85/100 |
| — | | 1024 x 768 | — | | |
| — | | 1280 x 1024 | — | | |
| — | | 1600 x 1200 | — | | |
| — | | 1920 x 1440 *1 | — | | 60/75/85 |
| — | | 2048 x 1536 *1 | — | | 60 |
| — | | 800 x 600 | — | 64K/64K | 60/75/85/100 |
| — | | 1024 x 768 | — | | |
| — | | 1280 x 1024 | — | | |
| — | | 1600 x 1200 | — | | |
| — | | 1920 x 1440 *1 | — | | 60/75/85 |
| — | | 2048 x 1536 *1 | — | | 60 |
| — | | 800 x 600 | — | 16M/16M | 60/75/85/100 |
| — | | 1024 x 768 | — | | |
| — | | 1280 x 1024 | — | | |
| — | | 1600 x 1200 | — | | |
| — | | 1920 x 1440 *1 | — | | 60/75 |
| — | | 2048 x 1536 *1 | — | | 60 |

* 1 : LCD に表示する場合は、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。

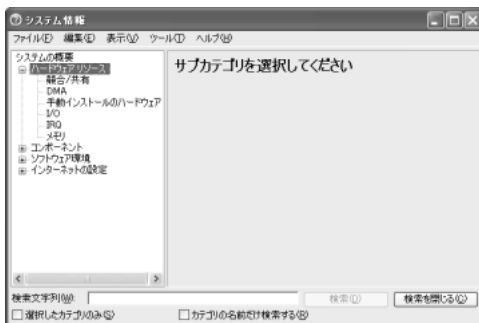
注）一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/Oポートマップ、IRQ使用リソース、DMA使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



メモリマップ : [メモリ]
I/Oポートマップ : [I/O]
IRQ使用リソース : [IRQ]
DMA使用リソース : [DMA]

5 内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

- モデムボードの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後には、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないでください。内部が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。モデムボードの取り付け／取りはずしは、電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
- モデムボードを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。

お願い

- モデムボードの取り付け、取りはずし、規格 (PTT) ラベルの確認以外の目的で内蔵モデムカバーを開けないでください。
- パソコン内部にネジや異物を残さないでください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【取り付け】

- ① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- ④ 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ 4 本をはずし、カバーを取りはずす
- ⑤ モデムボードのネジ 2 本を取りはずす
- ⑥ 接続コードをモデムボードに取り付ける

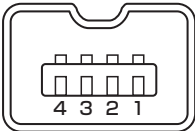
-
- ⑦ モデムボードをパソコン本体に取り付ける
 - ⑧ 手順5 ではなくしたモデムボードのネジ2本をとめる
 - ⑨ 手順4 ではなくしたカバーをはめ、ネジ4本をとめる
 - ⑩ バッテリパックを取り付ける

【 取りはずし 】

- ① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- ④ 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ4本をはずし、カバーを取りはずす
規格（PTT）ラベルを確認することができます。
- ⑤ モデムボードのネジ2本を取りはずす
- ⑥ 接続コードをモデムボードから取りはずす
- ⑦ モデムボードをパソコン本体に取りはずす
- ⑧ 手順5 ではなくしたモデムボードのネジ2本をとめる
- ⑨ 手順4 ではなくしたカバーをはめ、ネジ4本をとめる
- ⑩ バッテリパックを取り付ける

2 各インタフェースの仕様

1 i.LINK (IEEE 1394) インタフェース

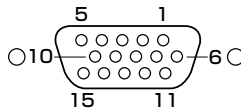
| ピン番号 | 信号名 | 意味 | 信号方向 |
|---|------|----------------------------|------|
| 1 | TPB- | ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号) | |
| 2 | TPB+ | ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号) | |
| 3 | TPA- | データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号) | |
| 4 | TPA+ | データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号) | |
| コネクタ図 | | | |
|  | | | |

信号方向 (1) : パソコン本体への入力
信号方向 (0) : パソコン本体からの出力

2 RGBインタフェース

| ピン番号 | 信号名 | 意味 | 信号方向 |
|------|----------|--------------|------|
| 1 | CRV | 赤色ビデオ信号 | 0 |
| 2 | CGV | 緑色ビデオ信号 | 0 |
| 3 | CBV | 青色ビデオ信号 | 0 |
| 4 | Reserved | 予約 | |
| 5 | GND | 信号グランド | |
| 6 | GND | 信号グランド | |
| 7 | GND | 信号グランド | |
| 8 | GND | 信号グランド | |
| 9 | Reserved | 予約 | |
| 10 | GND | 信号グランド | |
| 11 | Reserved | 予約 | |
| 12 | SDA | SDA通信信号 | I/O |
| 13 | -CHSYNC | 水平同期信号 | 0 |
| 14 | -CVSYNC | 垂直同期信号 | 0 |
| 15 | SCL | SCLデータクロック信号 | I/O |

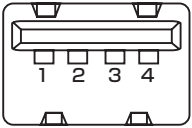
コネクタ図



高密度D-SUB 3列15ピンメス

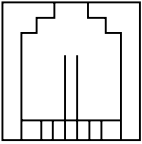
信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向（I）：パソコン本体への入力
 信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 USBインタフェース

| ピン番号 | 信号名 | 意味 | 信号方向 |
|---|-------|---------|------|
| 1 | VCC | +5V | |
| 2 | -Data | マイナスデータ | I/O |
| 3 | +Data | プラスデータ | I/O |
| 4 | GND | 信号グラウンド | |
| コネクタ図 | | | |
|  | | | |

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向（I）：パソコン本体への入力
 信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 モデムインタフェース

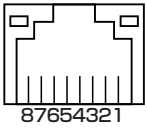
| ピン番号 | 信号名 | 意味 | 信号方向 |
|---|------|---------|------|
| 1 | - | ノーコンタクト | |
| 2 | - | ノーコンタクト | |
| 3 | TIP | 電話回線 | I/O |
| 4 | RING | 電話回線 | I/O |
| 5 | - | ノーコンタクト | |
| 6 | - | ノーコンタクト | |
| コネクタ図 | | | |
|  | | | |

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向（I）：パソコン本体への入力
 信号方向（O）：パソコン本体からの出力

5 LANインタフェース

| ピン番号 | 信号名 | 意味 | 信号方向 |
|------|--------|-----------|------|
| 1 | TX | 送信データ (+) | 0 |
| 2 | -TX | 送信データ (-) | 0 |
| 3 | RX | 受信データ (+) | 1 |
| 4 | Unused | 未使用 | |
| 5 | Unused | 未使用 | |
| 6 | -RX | 受信データ (-) | 1 |
| 7 | Unused | 未使用 | |
| 8 | Unused | 未使用 | |

コネクタ図



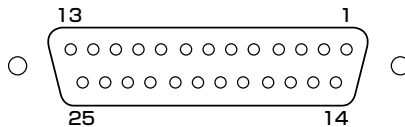
87654321

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
信号方向 (1)：パソコン本体への入力
信号方向 (0)：パソコン本体からの出力

6 PRTインタフェース

| ピン番号 | 信号名 | 意味 | 信号方向 |
|------|---------|-------------------------|------|
| 1 | -STROBE | PD0～7のデータを書き込むための同期出力信号 | O |
| 2 | PD0 | PD0のデータを送信する信号 | I/O |
| 3 | PD1 | PD1のデータを送信する信号 | I/O |
| 4 | PD2 | PD2のデータを送信する信号 | I/O |
| 5 | PD3 | PD3のデータを送信する信号 | I/O |
| 6 | PD4 | PD4のデータを送信する信号 | I/O |
| 7 | PD5 | PD5のデータを送信する信号 | I/O |
| 8 | PD6 | PD6のデータを送信する信号 | I/O |
| 9 | PD7 | PD7のデータを送信する信号 | I/O |
| 10 | -ACK | -STROBEに対するデータ受信完了信号 | I |
| 11 | BUSY | データ受信できるかどうかを示すステータス信号 | I |
| 12 | PE | 用紙切れを知らせるステータス信号 | I |
| 13 | SELECT | セレクト/ディセレクト状態を示すステータス信号 | I |
| 14 | -AUTFD | 自動用紙送り機構用信号 | O |
| 15 | -ERROR | アラーム状態を示すステータス信号 | I |
| 16 | -PINT | 初期状態に戻す信号 | O |
| 17 | -SLIN | 未使用 | O |
| 18 | GND | 信号グランド | |
| 19 | GND | 信号グランド | |
| 20 | GND | 信号グランド | |
| 21 | GND | 信号グランド | |
| 22 | GND | 信号グランド | |
| 23 | GND | 信号グランド | |
| 24 | GND | 信号グランド | |
| 25 | GND | 信号グランド | |

コネクタ図



D-SUB 25ピンメス

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

3 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



 参照 省電力設定について 「5章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : DynaBook V7 series

Model number : PAV75

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, PRT connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PAV75* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and/or the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年3月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

参照 → 関連情報は《サイバーサポート》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

| | |
|-----------------------------|---|
| Germany | - ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17 |
| Greece | - ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04 |
| Portugal | - ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10 |
| Spain | - ATAAB AN005,007,012, and ES01 |
| Switzerland | - ATAAB AN002 |
| All other countries/regions | - ATAAB AN003,004 |

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1 **NOTICE** : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353A-L4AINT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
- c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal. Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA740 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。

レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

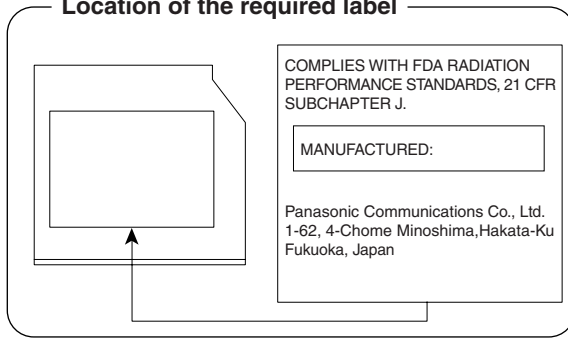
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

| | |
|------------------|--|
| CAUTION | VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM. |
| ATTENTION | RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU. |
| VORSICHT | SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN. |
| ADVARSEL | SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING. |
| ADVARSEL | SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN. |
| VARNING | SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG. |
| VARO ! | NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESIN. |

Location of the required label



TEAC CD-RW / DVD-ROM ドライブ DW-224E (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。

信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

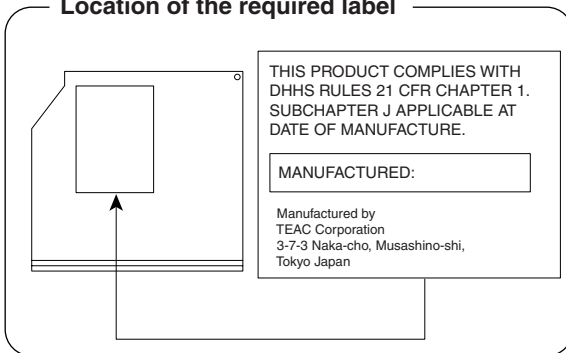
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

| | |
|------------------|--|
| CAUTION | INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM. |
| ATTENTION | RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU. |
| VORSICHT | UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN. |
| ADVARSEL | USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN. |
| ADVARSEL | USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN. |
| VARNING | OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG. |
| VARO! | NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALLTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN. |

Location of the required label



4 無線 LAN について

1 物理仕様

| | |
|----------------|-------|
| パワーセーブ（ドーズ）モード | 45mA |
| 受信モード | 250mA |
| 送信モード | 350mA |
| 供給電源 | 3.3V |

2 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節 6 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

| | | | | |
|--------------------|--|-------------------------|-------------------------|--------------------|
| 無線周波数帯 | 2.4GHz (2400-2483.5 MHz) | | | |
| 変調方式 | 直接拡散方式 CCK (転送レート High、Medium) DQPSK (転送レート Standard) DBPSK (転送レート Low) | | | |
| 拡散方式 | 11チップバーカーシーケンス | | | |
| ビットエラーレート (BER) | 10^{-5} 以上 | | | |
| 定格出力 | 15 dBm | | | |
| 転送レート | High Speed 11Mb/s | Medium Speed 5.5Mb/s | Standard Speed 2Mb/s | Low Speed 1Mb/s |
| 受信感度 | -83 dBm | -87 dBm | -91 dBm | -94 dBm |
| 拡散遅延 (FER 1%未満) | 65 ns | 225 ns | 400 ns | 500 ns |

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャンネルは、国内で適用される無線規制によって異なる場合があります (表「無線 IEEE802.11 チャンネルセット」参照)。各国で適用される無線規制については、「本節 6 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

【無線 IEEE802.11 チャンネルセット】

| 周波数帯域 | 2400-2483.5 MHz |
|-----------|-----------------|
| チャンネルID | |
| 1 | 2412 |
| 2 | 2417 |
| 3 | 2422 |
| 4 | 2427 |
| 5 | 2432 |
| 6 | 2437 |
| 7 | 2442 |
| 8 | 2447 |
| 9 | 2452 |
| 10 | 2457 *1 |
| 11 | 2462 |

* 1 : 購入時に設定されているチャンネルです。

無線 LAN のチャンネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャンネルを切り替えます。ステーションはチャンネル 1 から 11 までを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャンネルもこの範囲にする必要があります。
- "ピア・ツー・ピア" モードで無線 LAN 接続する場合は、チャンネル 10 が使用されます。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は 2,400MHz～2,483.5MHz です。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯 2,427MHz～2,470.75MHz と重複しています。

【1. ステッカー】

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーを PC 本体に貼付ください。

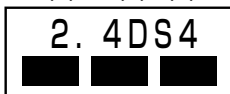
この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の放射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【2. 現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。

(1) (2) (3)



(4)

- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
(2) DS : 変調方式が DS-SS 方式であることを示す。
(3) 4 : 想定される与干渉距離が 40m 以下であることを示す。
(4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【3. 東芝PCダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル / 0570-00-3100

5 機器認定表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名： MPC13A-20/R

財団法人 電気通信端末機器審査協会 認証番号 D01-1128JP

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 01NYDA1088

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

6 ユーザに対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

東芝 Wireless LAN Mini PCI Card 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers(米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B) (無線 LAN 標準規格(版数 B))
- WECA (Wireless Ethernet Compatibility Alliance) の定義する Wireless Fidelity (WiFi) 認証

〈ご注意〉

- Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Wireless LAN 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

東芝 Wireless LAN 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【 規制に関する情報 】

東芝 Wireless LAN Mini PCI Card のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本装置は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L ' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

Approval Number : 248H-DPA3171U

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

- EN 60950 Safety of Information Technology equipment
- ETS 300 328 Technical requirements for radio equipment
- ETS 300 826 General EMC requirements for radio equipment.

| | |
|-----------|---|
| België/ | For outdoor usage only channel 10 (2457 MHz) and 11 (2462MHz) is allowed. |
| Belgique: | For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. An IBPT/BIPT license is required for public usage outside building. For registration and license please contact IBPT/BIPT. |

Gebruik buiten gebouw alleen op kanalen 10 (2457 MHz) en 11 (2462 MHz). Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor publiek gebruik buiten gebouwen is licentie van BIPT/IBPT verplicht. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.

L'utilisation en extérieur est autorisé sur le canal 10 (2457 MHz) et 11 (2462 MHz).

Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour une utilisation publique à l'extérieur de bâtiments, une licence de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.

Deutschland: License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.

France: Restricted frequency band: only channels 10 and 11 (2457 MHz and 2462 MHz respectively) may be used in France. License required for every installation, indoor and outdoor installations. Please contact ART for procedure to follow.

Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 10 à 11 (2457 et 2462 MHz respectivement) doivent être utilisés en France.

Toute utilisation, qu'elle soit intérieure ou extérieure, est soumise à autorisation. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (<http://www.art-telecom.fr>) pour la procédure à suivre.

Italia: License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed

E' necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno.

Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.

Nederland License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This device complies with Part 15 of FCC Rules. Operation of the devices in a Wireless LAN System is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference.
- This device must accept any interference that may cause undesired operation.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA. The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

● Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card will be installed with one of two types of antennas. The both of antenna types, when installed are located at the upper edge of the LCD screen.

For both antennas, the radiated output power of the TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. In normal operating configuration, the LCD in the upright position, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6PA3171WL, CJ6UPA3232BT.

● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement. The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

5 Bluetooth について

1 物理仕様

| | | |
|---------|--------------------|---|
| ワイヤレス通信 | 通信方式 | Bluetooth Specification Ver. 1.1 |
| | 無線周波数帯 | 2.4GHz (2402~2480MHz) |
| | 変調方式 | 周波数ホッピング方式 2値FSK |
| | 最大通信速度 | 約720kbps (非対称型通信時) 約430kbps (対称型通信時) |
| | 出力 ^{*1} | 最大+4dBm (Power Class2) |
| | 受信感度 ^{*1} | -70dBm |
| | 通信距離 | 見通し10m ^{*2} |
| 電源電圧 | 3.3V | |
| 消費電流 | 最大200mA | |

※1 アンテナの効率は含まれません。

※2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetooth モジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節 5 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広がります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 Bluetooth™ 東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は 2,400MHz～2,483.5MHz です。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯 2,427MHz～2,470.75MHz と重複しています。

【ステッカー】

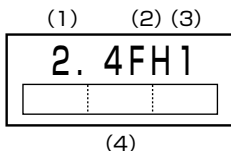
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーを PC 本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
(2) FH : 変調方式が FH-SS 方式であることを示す。
(3) 1 : 想定される与干渉距離が 10m 以下であることを示す。
(4) □ □ □ □ : 2,400MHz～2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

【東芝 PC ダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）
ナビダイヤル / 0570-00-3100

4 機器認定表示について

本製品には、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときには無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：EYTF2CS

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 01NYDA1305

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 ユーザに対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Bluetooth™ 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆる Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.1.1
- Bluetooth Special Interest Group の定義する Bluetooth ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

お願い

本製品はすべての Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。
ご使用にあたっては、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品は Bluetooth™ Version 1.1 仕様に準拠しております。
Bluetooth™ Version 1.0B 仕様の Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
- (3) Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品は他の無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth™ 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品を使用する場合
- 他の装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

IC:248H-DPA3232B

Caution

FCC Interference Statement

This device complies with part 15 of the FCC rules.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note that any changes or modifications to this equipment not expressly approved by the manufacturer may void the authorization to operate this equipment.

Caution

Exposure to Radio Frequency Radiation

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.

Nevertheless, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In order to comply with FCC radio-frequency radiation exposure guidelines for an uncontrolled environment, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA has to be operated while maintaining a minimum body to antenna which are located on top of LCD distance of 20 cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, it is advised to use the Bluetooth™ Card from TOSHIBA in such a manner that human contact during normal operation is minimized.

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6PA3171WL, CJ6UPA3232BT

Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.


Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

さくいん

記号

 キーを使ったショートカットキー ... 27

A

AC アダプタの仕様 20
Alt キー 22, 23
Arrow Mode LED 23, 24

B

BackSpace キー 23
BATTERY 194
Battery LED 21
BIOS セットアップ 190
Bluetooth Manager 99
Bluetooth SIG 97
Bluetooth 機能を使う 96
Bluetooth 設定 101
Bluetooth 東芝ユーティリティ 98
Bluetooth について 247
BOOT PRIORITY 203

C

Caps Lock LED 22, 24
Caps Lock 英数キー 22
CD/DVD 再生ボタン 17
CD の取り扱い 41
ConfigFree 92
CONFIGURATION 207
CRT ディスプレイを接続する 135
Ctrl キー 22, 23

D

DC IN LED 21
Del キー 23
Disk LED 21
DISPLAY 204

DMA 使用リソース 218
Drag'n Drop CD + DVD 60
DRIVES I/O 208
DVD-Video を観る 65
DVD の取り扱い 41

E

Enter キー 23
Esc キー 22

F

Fn キー 22
Fn キーを使った特殊機能キー 25

H

HDD PASSWORD 199
HDD パスワードについて 188
HDD パスワードの削除 201
HDD パスワードの登録 200
HDD パスワードの変更 201

I

i.LINK インタフェース 221
i.LINK コネクタ 16
i.LINK 対応機器の取り付け 137
i.LINK 対応機器の取りはずし 137
i.LINK 対応機器を接続する 136
i.LINK によるネットワーク接続 .. 137
I/O PORTS 207
I/O ポートマップ 218
IEEE 1394 インタフェース 221
IEEE 1394 コネクタ 16
IEEE 1394 対応機器の取り付け
..... 137
IEEE 1394 対応機器の取りはずし
..... 137

| | |
|-------------------------|-----|
| IEEE 1394 対応機器を接続する ... | 136 |
| Ins キー | 23 |
| InterVideo WinDVD | 65 |
| IRQ 使用リソース | 218 |

L

| | |
|-----------------------------|-----|
| LAN インタフェース | 224 |
| LAN ケーブルの接続 | 80 |
| LAN コネクタ | 18 |
| LAN コネクタに関するインジケータ | 81 |
| LAN へ接続する | 80 |
| LEGACY EMULATION | 209 |

M

| | |
|------------------------------|-----|
| MEMORY | 194 |
| MotionDV STUDIO | 74 |
| MS-DOS の起動ディスクを作成する | 119 |

N

| | |
|------------------------|--------|
| Numeric Mode LED | 23, 24 |
|------------------------|--------|

O

| | |
|--------------|-----|
| OTHERS | 204 |
|--------------|-----|

P

| | |
|--------------------|-----|
| PASSWORD | 196 |
| Pause キー | 23 |
| PC CARD | 208 |
| PCI BUS | 208 |
| PCI LAN | 210 |
| PC カードスロット | 16 |
| PC カードの取り付け | 123 |
| PC カードの取りはずし | 123 |
| PC カードを接続する | 122 |
| PERIPHERAL | 209 |

| | |
|-------------------|-----|
| Power LED | 21 |
| PrtSc キー | 23 |
| PRT インタフェース | 225 |
| PRT コネクタ | 18 |

R

| | |
|-------------------|-----|
| RGB インタフェース | 222 |
| RGB コネクタ | 18 |

S

| | |
|------------------------|--------|
| SD Card LED | 42 |
| SDMI | 42 |
| SD メモリカード | 42 |
| SD メモリカードスロット | 16 |
| SD メモリカードのセット | 43 |
| SD メモリカードの取り扱い | 47 |
| SD メモリカードの取り出し | 43 |
| Shift キー | 22, 23 |
| Space キー | 22 |
| SYSTEM DATE/TIME | 194 |

T

| | |
|-----------------------|----|
| Tab キー | 22 |
| TFT 方式カラー液晶ディスプレイ ... | 34 |
| TV 出力切替ボタン | 17 |

U

| | |
|----------------------|-----|
| USB インタフェース | 223 |
| USB コネクタ | 18 |
| USB 対応機器の取り付け | 126 |
| USB 対応機器の取りはずし | 127 |
| USB 対応機器を接続する | 126 |

W

| | |
|----------------------------|----|
| Windows Media Player | 52 |
| Windows のネットワーク設定 | 81 |

ア

| | |
|---------------------|-----|
| アプリケーションキー | 23 |
| アプリケーションを削除する | 171 |
| アプリケーションを追加する | 170 |
| アプリケーションを使う前に | 168 |
| アロー状態 | 24 |
| アンインストール | 171 |

イ

| | |
|----------------------|-----|
| インスタントセキュリティ機能 | 25 |
| インストール | 170 |
| インターネットボタン | 17 |

ウ

| | |
|----------------|----|
| ウィンドウズキー | 22 |
|----------------|----|

エ

| | |
|---------------------|----|
| 映像を編集する | 74 |
| 液晶ディスプレイの取り扱い | 35 |

オ

| | |
|----------------------|----|
| オーディオデジタル再生ボタン | 17 |
| オーディオプレイボタン | 17 |
| オーバーレイキー | 23 |
| 大文字ロック状態 | 24 |
| オリジナル音楽CDを作る | 60 |
| 音楽CDを聴く | 52 |
| 音楽ファイルを聴く | 56 |

カ

| | |
|-----------------------|-----|
| 海外でインターネットに接続する | 106 |
| 外形寸法図 | 215 |
| 回線切換器 | 106 |
| 解像度を変更する | 34 |

| | |
|----------------------------|-----|
| 書き込み可能状態 (SD メモリカード) | 44 |
| 書き込み可能状態 (フロッピーディスク) | 118 |
| 書き込み禁止状態 (SD メモリカード) | 44 |
| 書き込み禁止状態 (フロッピーディスク) | 118 |
| 各部の名前 | 16 |
| カタカナ／ひらがなキー | 23 |
| カテゴリ | 80 |

キ

| | |
|-------------------|-----|
| キーシフトインジケータ | 24 |
| キーボード | 16 |
| キーボードの取り扱い | 28 |
| 逆送りボタン | 17 |
| 休止状態 | 163 |

ク

| | |
|------------------|-----|
| クイックフォーマット | 119 |
| クリック | 29 |

サ

| | |
|------------------|----|
| 再生／一時停止ボタン | 17 |
| サウンド機能 | 37 |
| 先送りボタン | 17 |

シ

| | |
|----------------------|--------|
| シーソースイッチ | 16 |
| システムインジケータ | 16, 21 |
| システム環境の変更 | 174 |
| 使用できる CD | 39 |
| 使用できる DVD | 40 |
| 使用できるフロッピーディスク | 117 |
| 省電力モード | 156 |

ス

| | |
|----------------------------|-----|
| スーパーバイザパスワード | 186 |
| 数字ロック状態 | 24 |
| スタンバイ | 163 |
| スピーカ | 16 |
| スリムセレクトベイ | 18 |
| スリムセレクトベイ LED | 21 |
| スリムセレクトベイ機器の差し替え | 112 |
| スリムセレクトベイ機器のロック | 113 |
| スリムセレクトベイ・リリースラッチ | 19 |
| スリムセレクトベイロック | 19 |

セ

| | |
|----------------------|-----|
| 静電気について | 142 |
| 製品仕様 | 212 |
| 赤外線ポート | 16 |
| セキュリティロック | 49 |
| セキュリティロック・スロット | 16 |

ソ

| | |
|-------------------|-----|
| 増設メモリスロット | 19 |
| 増設メモリの取り付け | 142 |
| 増設メモリの取りはずし | 144 |

タ

| | |
|---------------|----|
| タッチパッド | 16 |
| タッピング | 29 |
| ダブルクリック | 29 |

ツ

| | |
|-----------|----|
| 通風孔 | 18 |
|-----------|----|

テ

| | |
|-------------------------------|--------|
| ディザリング表示 | 34 |
| 停止ボタン | 17 |
| ディスプレイ | 16, 34 |
| ディスプレイ開閉ラッチ | 16 |
| デジカメ Walker | 71 |
| デジタルカメラの写真を編集 / 整理する | 71 |
| テレビに表示する | 130 |
| テレビを接続する | 130 |
| 電源コードの仕様 | 20 |
| 電源コードの取り扱い | 20 |
| 電源コネクタ | 18 |
| 電源スイッチ | 16 |

ト

| | |
|-----------------------------|-----|
| トークンの作成 | 184 |
| 東芝 HW セットアップ | 175 |
| 東芝 PC 診断ツール | 213 |
| 東芝 SD メモリカードフォーマット | 45 |
| 東芝コントロール | 48 |
| 東芝省電力ユーティリティ | 156 |
| 東芝パスワードユーティリティ .. | 181 |
| 特殊機能キー | 28 |
| 時計用バッテリー | 151 |
| ドラッグアンドドロップ | 29 |

ナ

| | |
|----------------------------|-----|
| 内蔵モデム | 106 |
| 内蔵モデム用地域選択ユーティリティ | 106 |

ハ

| | |
|------------------|-----|
| ハードウェアリソース | 218 |
|------------------|-----|

| | |
|----------------|-----|
| ハードディスクドライブ | 36 |
| パソコン本体の取り扱い | 20 |
| バッテリー | 148 |
| バッテリー駆動での使用時間 | 153 |
| バッテリー充電完了までの時間 | 152 |
| バッテリー充電量 | 149 |
| バッテリーの充電方法 | 151 |
| バッテリーの充電保持時間 | 153 |
| バッテリーパック | 19 |
| バッテリーパックの交換方法 | 154 |
| バッテリー・リリースラッチ | 19 |
| バッテリーを長持ちさせるには | 153 |
| パネルスイッチ機能 | 166 |
| 半/全キー | 22 |

ヒ

| | |
|---------------|-----|
| ピクセル | 34 |
| 左ボタン | 16 |
| ビデオケーブルの取り付け | 130 |
| ビデオケーブルの取りはずし | 134 |
| ビデオ出力端子 | 18 |
| ビデオモード | 216 |
| 表示可能色数 | 34 |

フ

| | |
|--------------------|-----|
| ファンクションキー | 22 |
| フォーマット (SD メモリカード) | 45 |
| フォーマット (フロッピーディスク) | 118 |
| プラグアンドプレイ | 111 |
| プリンタケーブルの取り付け | 128 |
| プリンタケーブルの取りはずし | 129 |
| プリンタの設定 | 128 |
| プリンタを接続する | 128 |
| フロッピーディスクドライブ | 116 |

| | |
|-------------------|-----|
| フロッピーディスクドライブの手入れ | 121 |
| フロッピーディスクの取り扱い | 121 |
| 分岐アダプタ | 106 |

へ

| | |
|-----------|-----|
| ヘッドホン | 139 |
| ヘッドホン出力端子 | 16 |
| 変換キー | 23 |

ホ

| | |
|-----------|-----|
| ボリュームダイヤル | 16 |
| 本製品の仕様 | 212 |

マ

| | |
|---------------|-----|
| マイク入力端子 | 16 |
| マイクロホン | 138 |
| マスタ HDD パスワード | 189 |
| マスタ音量 | 37 |
| マルチドライブ | 39 |

ミ

| | |
|------|----|
| 右ボタン | 16 |
|------|----|

ム

| | |
|-------------|-----|
| 無線 LAN | 82 |
| 無線 LAN について | 240 |
| 無変換キー | 22 |

メ

| | |
|----------|-----|
| メールボタン | 17 |
| メモリマップ | 218 |
| メモリ容量の確認 | 145 |
| メモリを増設する | 141 |

モ

| | |
|-----------|----|
| モジュラージャック | 18 |
|-----------|----|

モデムインタフェース 223

ヤ

矢印キー 23

ユ

ユーザHDDパスワード 188

ユーザパスワードの削除 185

ユーザパスワードの登録 182

ユーザパスワードの変更 185

有線LAN 80

ラ

ライトプロテクトタブ
(SDメモ리카ード) 44

ライトプロテクトタブ
(フロッピーディスク) 118

ロ

録音レベルの調整 38

ワ

ワイヤレスコミュニケーションLED
..... 21

ワイヤレスコミュニケーションスイッチ
..... 16

ワンタッチボタン 48